

長野市の埋蔵文化財第5集

# 塩崎遺跡群

—塩崎小学校地点遺跡の第2次調査報告—

1979.3

長野市教育委員会  
長野市遺跡調査会

## 序 文

文化財の保護が適切に行なわれることは、住民の文化に対する意欲を増し、その基盤を健全なものとするばかりでなく、文化財を後々の世に伝えるうえにおいて、欠かすことのできないものだと思います。

塩崎小学校校舎の改築工事は、校舎建物の老朽化の進度が配慮され、昭和52年度から敷地を変えて改築することが決まりました。ひるがえってこの地域は、早くから広く知られていました埋蔵文化財の包蔵地でありますので、工事に先立ち発掘調査を実施し、記録保存の処置をとることになりました。現地では当市教育委員会の委託を受けた長野市遺跡調査会が、これに当りましたことは、すでに発行されている第1次調査報告書で明らかであります。

そこで本年度は、前年に引き続く第2次発掘調査を5月12日から同月末日までの20日間にわたって行なわれました。本書は、この第2次発掘調査の報告であります。

いまこの報告書を眼前にして、はるかに遠い埋蔵文化財活用当時の社会で、遺構や遺物を直接身にふれ手にした人々が、現在の私達といずれかにおいて、つながりのあることを思う時、先人への思い出が新たによみがえり、往時の文化や生活過程を推定すると共に古代社会の形成をはぐくみ、そこで生涯をかけた地域の人々を静かに偲びたいと思います。

悠久の過去を顧みることは、豊かな現代社会に生きるもの精神的なつとめでもあります。本書が、このような面で、利用してもらえるなら望外の喜びであります。

この報告書が発行されるにあたり、まず長野市遺跡調査会ならびに同調査団の森嶋団長ほか団員の皆さんのが格別なご努力に厚くお礼を申し上げます。また、地域において埋蔵文化財に深い関心をもたれ、発掘調査に終始協力された方々に、あわせて現地への理解と多大なる励ましをいただいた多くの関係者に、心から感謝をささげます。

昭和54年3月25日

長野市教育委員会教育長  
長野市遺跡調査会長

中村博二

## 例　　言

1. 本書は昭和53年度に長野市・長野市教育委員会と長野市遺跡調査会との契約に基づいた塩崎小学校改築地における第2次調査報告書である。
2. 本書は第1次調査報告書と重複部分を割愛し、また総括報告は第3次調査報告書に譲る。
3. 本書の遺構番号は検出順に第1次調査の結果を継続して付した。
4. そのため本書は調査によって検出された遺構・遺物をより多く図示することに重点をおいた。尚遺物の詳細については図前頁に表にして記した。
5. 遺構図は原が担当整図した。
6. 遺物の実測は原、赤羽、石上が担当し、原が整図した。拓本は百瀬が行なった。
7. 遺構写真は矢口が行ない、遺物写真は竹内が担当した。
8. 遺物実測図中、推定復元可能なものは鎖線で、黒色処理されるものは黒点で、赤色塗彩のものは朱色点でそれぞれ表示した。
9. 遺構・遺物の執筆は各調査員の作成した住居址等遺構カードにより、主として矢口が行ない、その責は矢口にある。
10. 遺構や遺物等の関係図面、諸記録は長野市教育委員会で保管している。
11. 本書の編集は事務局で行ない、森嶋調査団長の校閲を受けた。
12. 印刷関係の業務は事務局が担当した。

## 本文目次

序文  
例言

長野市教育委員会教育長  
長野市遺跡調査会長 中村博二

第1章 発掘調査の経過 ..... 1

  第1節 発掘調査に至る経過 ..... 1  
  第2節 調査日誌 ..... 1  
  第3節 調査会の編成 ..... 3  
  第4節 調査協力者一覧 ..... 4

第2章 塩崎遺跡群内の地点遺跡 ..... 6

第3章 遺構と遺物 ..... 8

  第1節 住居址 ..... 8  
    1 第33号住居址 ..... 8  
    2 第34号住居址 ..... 9  
    3 第35号住居址 ..... 9  
    4 第36号住居址 ..... 9  
    5 第37号住居址 ..... 10  
    6 第38号住居址 ..... 10  
    7 第39号住居址 ..... 10  
    8 第40号住居址 ..... 11  
    9 第41号住居址 ..... 11  
   10 第42号住居址 ..... 11  
   11 第43号住居址 ..... 12  
   12 第44号住居址 ..... 12  
   13 第45号住居址 ..... 12  
   14 第46号住居址 ..... 12  
   15 第47号住居址 ..... 13

16 第48号住居址	13
17 第49号住居址	13
18 第50号住居址	14
19 第51号住居址	14
20 第52号住居址	14
21 第53号住居址	15
22 第54号住居址	15
23 第55号住居址	15
24 第56号住居址	15
25 第57号住居址	16
26 第58号住居址	16
 第2節 方形周溝墓	16
 第3節 土 壤	17
1 土 壤5	17
2 土 壤6	17
3 土 壤7	17
 第4節 柱 穴 群	18
 第5節 溝 状 遺 構	18
 第6節 その他の遺物	18
 第4章 結 語	19

## 挿 図 目 次

出土土器一覧表	20
第1図 塩崎遺跡群内の地点遺跡	7
第2図 塩崎小学校々舎配置図及び調査地	29
第3図 第2次調査遺構分布図	30
第4図 第33・34号住居址実測図	31
第5図 第35・36・37号住居址実測図	32
第6図 第38・39・40・44・45号住居址実測図	33
第7図 第41号住居址実測図	34
第8図 第42・43号住居址実測図	35
第9図 第46・47・50号住居址実測図	36
第10図 第48・49号住居址実測図	37
第11図 第51・52号住居址実測図	38
第12図 第53・54・55号住居址、土壤5・6実測図	39
第13図 第56・57・58号住居址、土壤7実測図	40
第14図 方形周溝墓実測図	41
第15図 柱穴群実測図	42
第16図 第33号住居址出土土器	43
第17図 第33号住居址出土土器	44
第18図 第34・35・37号住居址出土土器	45
第19図 第36・38・40・41号住居址出土土器	46
第20図 第41・42・44・45・46号住居址出土土器	47
第21図 第47号住居址出土土器	48
第22図 第48・49・51号住居址出土土器	49
第23図 第52号住居址出土土器	50
第24図 第52・43・55・56・57号住居址出土土器	51
第25図 第58号住居址、土壤5・7、その他出土土器	52
第26図 第43・56・57号住居址出土土器拓影	53
第27図 第55号住居址出土土器拓影	54
第28図 方形周溝墓出土土器、第33号住居址出土石器、他の土製品	55
第29図 方形周溝墓、第43・49・57号住居址、その他出土石器	56

## 図 版 目 次

- 第1図版 調査地・遺構検出中（第Ⅰ期新校舎屋上より）
- 第2図版 第33号住居址
- 第3図版 第34・35号住居址
- 第4図版 第36号住居址
- 第5図版 第37・38号住居址
- 第6図版 第39・40号住居址
- 第7図版 第41号住居址・第42号住居址カマド
- 第8図版 第42・43号住居址
- 第9図版 第38～43・46号住居址
- 第10図版 第47号住居址
- 第11図版 第48号住居址
- 第12図版 第49・51号住居址
- 第13図版 第52号住居址
- 第14図版 第54号住居址
- 第15図版 第55（土壤5・6）・第56（土壤7）号住居址
- 第16図版 第57号住居址・柱穴群
- 第17図版 方形周溝墓
- 第18図版 調査スナップ
- 第19図版 調査スナップ
- 第20図版 第33号住居址出土土器
- 第21図版 第41・42・44・47号住居址出土土器
- 第22図版 第48・51・52号住居址出土土器
- 第23図版 第43・55・58・49号住居址出土遺物
- 第24図版 第1・2次調査出土石器

# 第1章 発掘調査の経過

## 第1節 発掘調査に至る経過（第2図）

長野市は市立小・中学校の老朽校舎改築事業を進めているところであり、塩崎小学校も明治・大正期に建設された木造校舎で、その対象になり、昭和52年度から3年間（3期）で事業を完成する計画がたてられた。そこで長野市教育委員会は過去の調査及び出土例等を鑑み、弥生時代から平安時代にかけ集落址が予想されたため、第Ⅰ期工事分約780m<sup>2</sup>を昭和52年7月3日から7月17日に第1次発掘調査を実施した、その結果調査報告書にみるとおり、予想以上の遺構・遺物を検出し、遺跡群の主要部であることが判明し、更にその広がり、性格を追求するために、本年度は第Ⅱ期工事分約600m<sup>2</sup>を昭和53年5月15日～6月1日までPTA・改築期成同盟会の協力を得て実施することにした。尚昭和54年度には現在の管理棟の一部改築が計画されている。

## 第2節 調査日誌

5月15日（晴） 本日より調査開始。バックホーにより東側より表土除去作業にかかるも新校舎基礎破壊の恐れがあり、調査作業にも危険があるので、3m離しての作業である。機材運搬を行う。

5月16日（晴） 昨日と同様バックホーによる表土除去を行う。

5月17日（晴） 昨日と同様バックホーによる排土作業を続けるとともに、午後より人手による整地作業を行う。遺物少なし。

5月18日（晴のち曇） 昨日と同作業を行う。東側に柱穴が集中し、住居址と重複して発見されたので、新しい柱穴より調査にかかる。

5月19日（晴） 昨日と同作業を行う。バックホーによる排土除去完了。新たに西側にも住居址の発見があり、プラン追求をする。中央付近は柱穴等が重複していないためこの部分より住居址の検出にかかる。本日の調査は第33・34・35号住居址である。

5月20日（晴） 西側の整地を進行するとともに、昨日と同様遺構の検出を進める。新たに第37・38・39号住居址の調査にかかる。第39号住居址完了。第33号住居址北壁・カマド周辺に遺物の出土が目立つ。第34号住居址からの出土量は少ない。

5月21日（晴） 第34・35号住居址精査完了。他の遺構の調査を進める。西側は住居址が複

雑に重複しており、プラン追求に困難を極める。第39号住居址・柱穴群の写真撮影・実測作業をする。第35号住居址より須恵器が出土。全体に遺物量は少ない。

5月22日（曇） 第33・37・38号住居址調査完了。写真撮影・実測作業を行う。新たに第36・40号住居址の調査にかかる。第41号住居址のプランを追求する。

5月23日（晴） 第33号住居址実測及び遺物のとり上げを行う。第41・43号住居址の調査にかかる。遺り方を組む作業を行う。

5月24日（晴） 昨日の遺構の調査を進める。第43号住居址の写真撮影・実測終了後これと重複している第42・44～46号住居址の調査にかかる。柳原市長来訪。

5月25日（曇） 暑い日が続くが今日は特にむし暑い。第41号住居址精査及び前日からの調査遺構の実測・写真撮影を行う。新たに第47～53号住居址の調査にかかる。第50・51・53号住居址完掘し、写真撮影・実測作業を実施する。

5月26日（晴） 昨夕から今朝の降雨によりかわききった遺構面の色調が明確になり調査は一層はかかる。昨日からの遺構検出を進める。第47・48号住居址北壁添いから完形に近い遺物が多く出土した。第49号住居址の写真撮影・実測作業を行う。東側遺構プランの追求に全力を上げる。

5月27日（晴） 第49・54・55号住居址の写真撮影実測作業を行う。新たに第54～56号住居址の調査にかかる。

5月28日（曇） 第48・55号住居址の写真撮影・実測作業を行うとともに、第48・49号住居址内にある土壙5・6・7の精査を行う。調査地中央付近の遺構が不明だったので南北に小トレンチを入れ遺構の確認を行なったところ、現調査面より約20～30cm のところに東・北に弥生時代と推定される住居址があり第57号と付し調査にかかる。北側の遺構プランの追求を行う。

5月29日（曇のち雨） 作業は午前中で終了。第51・52号住居址・土壙の実測・写真撮影を行う。昨日より追求していた遺構は溝になりそれも直角に近いコーナーを有することから方形周溝墓の可能性がでてき、調査が勢いづく。

5月30日（雨のち晴） 第57号住居址の精査・写真撮影を行い、第58号住居址の調査にかかる。方形周溝墓のプラン追求をする。南東溝中より管玉出土。

5月31日（晴） 方形周溝墓のプラン確認と精査にかかる。東側の溝より垂玉が出土し、主体部に期待をもって調査を進めたが、何も出土しなかった。主体部を切る溝の調査も合せて進行する。本日で調査を一応終了する。

6月1日（晴） 方形周溝墓・溝・第57・58号住居址の測量及び写真撮影を行う。遺構・カマドのたち割り等確認調査を実施する。これらの作業終了後工事着工のためブルトザーにより整地がはじまり、何ともいえない気持になり、見るにしのびなかった。

6月2日 機材撤収。

6月～7月 土器洗浄・注記・復元・実測作業を行う。

1月～3月 土器実測・図面整図・執筆作業を行う。

### 第3節 調査会の編成

本調査会は埋蔵文化財の保護・保存及び、調査企画を主なる業務とし、調査結果を有効に生かすため設立されたもので、調査会の構成は以下のとおりである。

#### 1 調 査 会

会長 中村 博二 長野市教育委員会教育長

委員 米山 一政 長野市文化財保護審議会会长

〃 桐原 健 〃 委員

〃 森嶋 稔 調査団長

〃 横山 勝 長野市教育委員会教育次長

〃 関川千代丸 〃 社会教育課嘱託

〃 矢口 忠良 〃 〃 主事

監事 青沼欣一郎 〃 庶務課長

#### 2 調 査 団

調査団長 森嶋 稔 (日本考古学协会会员・上山田小学校教諭)

〃 主任 矢口 忠良 ( 〃 ・長野市教育委員会主事)

調査員 原田 勝美 ( 〃 ・長野市役所)

〃 原 明芳 (長野県考古学会会員・信大学生)

〃 鳥羽 英継 ( 〃 ・ 〃 )

〃 金井 寿子 ( 〃 ・立正大学生)

整理補助 竹内 稔 ( 〃 ・信大学生)

直井 雅尚 ( 〃 ・ 〃 )

小林 秀行 ( 〃 ・ 〃 )

赤羽 史子 (信大学生)

石上 周蔵 ( 〃 )

#### 3 事 務 局

事務局長 (社会教育課長) 丸山 喜正

担当局員 ( 〃 課長補佐) 相沢 金治

〃 ( 〃 文化財係長) 吉池 弘忠

〃 ( 〃 〃 主事) 矢口 忠良

〃 ( 〃 〃 嘱託) 関川千代丸

## 第4節 調査協力者一覧

(作業員) 高橋かつみ・高野千代恵・高野孝子・内山広子・町田起代子・北田玉枝・梅村範夫・新津百合子・南久美子・島田久江・笠井文子・矢島たき江・滝沢千代・宮崎信子・山岸せつ子・酒井久子・吉岡なお子・坂田英雄・権田隆美・丸山いつ子・立川孝子・阿部喜代子・根岸洋子・橋詰和子・宮本百合子・関房江・田中澄子・竹田きよ子・小山恵美子・伊藤洋子・大目方恵美子・杵渕てる子・柳沢富子・倉田美智子・久保田大・関主税・祢津悦子・北村文子・矢島幸江・佐藤ふみ子・風間きみ子・北村喜多子・中島美佐子・小林智枝子・小島志江子・鶴田茂子・多賀谷照子・柳原久美子・池田悦子・笠井幸江・山本孝子・常見晴子・小山さちい・田中喜代枝・北沢暁子・塙田リツ子・松尾たか子・北沢幸子・北村ケイ・富田光子・田中実・田中栄・杏掛静男・百瀬京子・田中宣子・馬場澄子・北村孝子・提雪子・堤美代子・矢島登美子・矢島千鶴・田中冴子・井唄幸子・三宅清・飯島たけ子・南条まち子・若林昭子・樋口太一・山田ケサミ・田中洋子・小幡貴久枝・清水初美・小幡智子・後藤優子・伊藤靖子・後藤さち江・風間照子・宮崎郁子・伊藤当子・上原志な子・飯島申江・利根川みよし・滝沢とく子・吉沢米子・滝沢利子・松崎巳保子・後藤君子・松崎田鶴子・臼井当子・渡利悦子・風間孝子・峯村愛子・小池けさ子・石川みさ江・西沢裕子・西沢とあ子・大内和子・倉石まさ・田中節子・石川のぶい・樋口英子・大日方良子・本道チエ子・鈴木美智子・石川千代子・佐藤俊江・小山みすい・倉石きい子・渡利忠弘・岡田きのえ・鈴木君子・片桐恵美子・岡田澄子・丸山初枝・鈴木好雄・宮崎公子・風間綾子・岡間雅子・宮崎富子・塩入たけ・宮崎英子・高橋清子・岡田夫美恵・小島紀子・春原すみ江・風間豊子・国政楨子・荒川克江・宮崎寿磨子・小島徳子・風間明子・山崎利子・島田かつし・杏掛節子・寺島福子・牛沢みな子・松林千枝子・小林加代子・小岸英子・祢津いく子・小島まち・荒井静子・宮崎清子・岩佐貴代子・岡沢泰子・山本芳子・飯島恒子・宮崎房子・星野千潮・北村優美子・荒井喜子・荒井かち・宮崎雅子・宮崎志づ子・三沢文子・小川弘子・柳原徳子・莅戸けさみ・西沢かつ子・西沢京子・風間キミ子・丸山俊敦・倉石金次郎・林加代子・林広子・武さだ子・北原久美子・久保美伊子・丸山道子・竹村法子・宮崎和子・飯島艶子・橋詰敬子・海野志津子・北沢友江・藤下正昭・風間秀司・長尾慶子・内山節子・上原みつ子・馬場あや子・田中まさ・宮本ひろ子・高橋智江・臼井まさ子・中村秀子・中村秀子・丸山久子・久保田郁子・宮崎益江・樋口満郎・杏掛克春・坂口礼子・百瀬京子・上野きく江・荒井昭子・北村百合子・小出史子・武村猶子・工藤法子・北沢やすい・北沢道子・松橋房子・矢島教子・若林昭子・小林とよ子・杏掛みはる・田中勝子・市川とよ子・荒井和枝・小宮山孝一・宮崎春雄・宮崎五郎・祢津光男・宮崎秀夫・松林泰子・風間よさ子・山本喬雄・岩崎貞光・小島京子・野中久代・清水松枝・松林洋子・村松枝子・古屋幸子・小宮山けさ・片桐栄子・桑原なみ江・穂苅幸子・中村三代子・片根千代子・鳥羽けさ子・林澄代・北山けさ江・伊藤紀美子・山本貞子・古川昭子・堀川喜伊子・大日方美和子・横井秀子・五十

嵐シズ・山口玉枝・青山治子・野本みちこ・青木久子・石田博・古雅清美・北村きよ子・清水千鶴子・倉石幸子・鈴木廣子・石川芳子・西沢とあ子・倉石きよ子・松井恒子・野沢志げ子・林登代・倉石美津子・吉岡なお子・鳥羽紺紗子・荒井君江・近藤節子・風間茂春・宮崎公子

(協力団体) 塩崎小学校・同校PTA・同校改築期成同盟会・教委学校施設課・建設部建築課・柳原工務店・笠井建設共同体

以上記した方々、団体の他周辺住民の皆さんからも多大な援助をいただいた。記して感謝の意を表します。

## 第2章 塩崎遺跡群内の地点遺跡

本遺跡に関する地理的環境・歴史（考古学）的環境については第1次調査報告書でふれてい るので、ここでは群内の地点遺跡を瞥見することにする（第1図）。

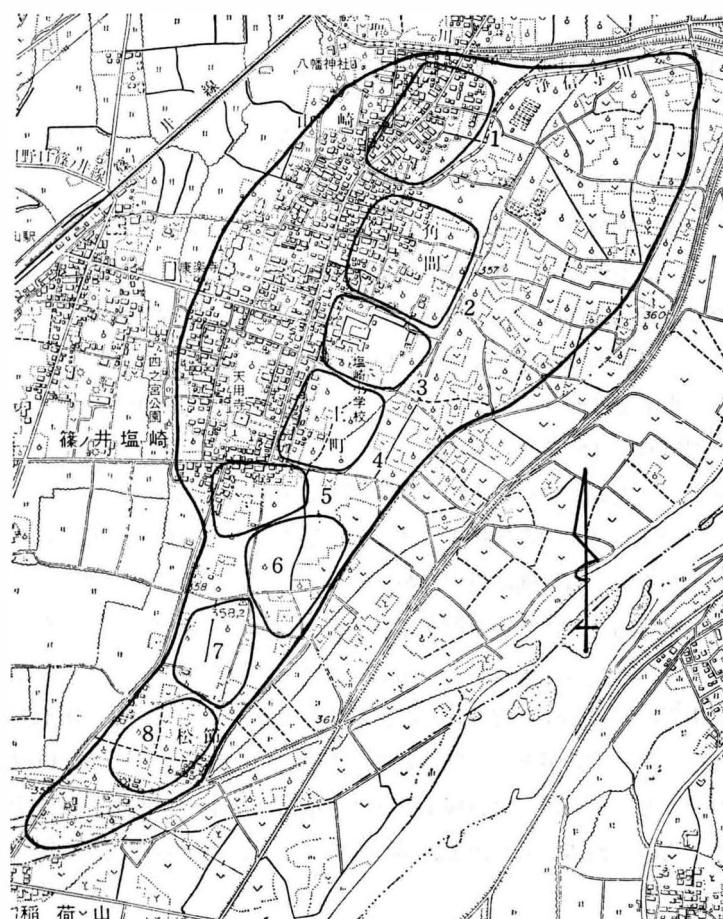
本遺跡群は千曲川左岸に展開する自然堤防上の遺跡で、聖川を境に便宜上篠ノ井遺跡群と 分けるが、稻荷山遺跡群・横田遺跡群とともに一連の同内容をもつ遺跡と思料される。

時期的には弥生～平安時代の考古学的遺物が採集されているが、縄文時代中期より散在的に 生活が営まれた資料が発見されている。縄文時代中期の遺物として本調査地に隣接するプール より石皿の破片が1点出土しているが、土器片等の伴出資料がないので、この時期に生活址が 存在したかは今後の調査に期待される。<sup>註1</sup>これに後続する資料も断片的で、一本木遺跡では晩期 の大洞A式期の変形工字文土器が1片、伊勢宮遺跡から大洞B式土器併行の粗大工字文土器片 が出土しているにすぎないが、その発見事例では地下約3.5mからの出土であり、これも確定 的なことは今後の調査をまたなければならない。<sup>註2</sup>弥生時代にはいると、水稻栽培農耕の進展と ともにが然活気づいてくる。弥生時代波及期の遺跡として伊勢宮遺跡が登場する。善光寺平に おいて遠賀川系土器が発見された代表的かつ最初の遺跡で、東日本の変形工字文土器・東海的 な条痕文土器が伴出する。この他磨消縄文土器・沈線文土器があり、石器群としても10数点の 石鏃・特異な打製石包丁・打製石斧・ノミ形石斧・方柱状抉入片刃石斧・太形蛤刃石斧等が出 土しており、<sup>註3</sup>弥生時代研究上重要な遺跡である。この遺跡出現以後この自然堤上の後続時期の 遺跡・遺構・遺物が第1次調査結果をみるよう爆発的に増加し、一大集落址を構成するよう になるものと思われ、本調査地を含む学校敷地から、特異なものとして環状石斧が出土してお り、先述の伊勢宮遺跡からも中期・後期の遺物が採集され、塩崎中条遺跡からは後期の埋甕炉 <sup>註4</sup>を有する住居址が確認されており、松節遺跡からは時代的に問題を残しているが、銅鉢および 滑石製模造鉢が出土しており、当期の銅利器文化を知る上で重要な遺跡である。この他丹彩の 施こされた高壙形土器・壺形土器及び櫛状工具により施文された甕形土器等が出土した一本木 ・堀の内遺跡等が確認されている。古墳時代から平安時代にかけては集落規模が更に密にな り、前記した遺跡から遺物が採集され、ことに塩崎中条遺跡・松節遺跡からは集居址が検出さ れている。<sup>註5</sup><sup>註6</sup><sup>註7</sup>

以上遺跡群内の地点遺跡は今回の調査のようにある一定の広い面積で調査されたものでなく、表採資料等は偶然的な発見であり、遺跡群全体を把握するまでに至っていない。今後調査 が進むにつれ、肥沃な生産地をかかえる重要な位置にあるので、歴史上の新知見・新発見があ るものと期待される。

## 註

1. 塩崎小学校蔵
2. 荒井藤四郎氏採集品蔵
3. 磯崎正彦「長野県篠ノ井市伊勢宮遺跡の古式弥生式土器」『信濃』11の6（昭和34年）  
2と同じ。
4. 昭和41年頃桐原健氏等により調査されている。
5. 円形石囲炉を有する祭祀遺跡と推定されており、米山一政氏が確認調査を行なったが、決定的資料が得られなかった。この調査で古墳時代住居址1軒を検出している。
6. 4と同じ。昭和42年森嶋稔氏が調査している。5と同じ。
7. 森嶋稔『更科埴科地方誌』第2巻「原始・古代」（昭和50年）に本遺跡群の内容の詳細があるので参考にされたい。



第1図 塩崎遺跡群内の地点遺跡

## 第3章 遺構と遺物

本調査で確認・検出した遺構の種別は第33～58号までの26軒の住居址、1基の方形周溝墓、3基の土壙、柱穴群と溝状遺構である。第1次調査同様調査地全面に認められ、そのほとんどが他遺構と重複関係にある。掘り込み確認土層は黄褐色砂混り粘質土層で、古墳時代以降のものの覆土は黒褐色粘質土を基本としているが、弥生時代のものはより多くの炭化物を含み、黒味が強い色調になる。

### 第1節 住居址

#### 1. 第33号住居址（第4・16・17・28図、第2・20図版）

**遺構** 調査地のほぼ中央の北に張り出す地域から検出されたもので、南・西壁の一部及び北・東壁は調査区域外にある。調査地内では単独の遺構である。プランは隅丸方形を呈するものと思われ、規模等は不明であるが南壁からカマド中央まで3.5mを測るので、7m前後になるものと推定される。主軸方向はN—53°—Wで、カマドは西壁中央付近に付設される。粘土製両袖形のもので、袖先端部に角礫を用い、長さ70cmを測る。壁高は25cmを測りやや傾斜を有する。床面は平坦で軟弱である。柱穴はない。遺物は第4図に示したとおりカマドを中心にして西壁下に集中して出土しており、他からの出土量は少ない。また南北より中央付近に床面に接して長楕円形の河原石が4個確認された。

**遺物** 完形品それに近いものの出土があり、覆土よりも少ないと見られる。器形は多種で椀形（第16図4）と口縁部が外開する壺形土器(2)、高壺形土器(1)、小形の甕形土器には5・6、最大径が体部中央にある7と口縁部に最大径がある鉢形を呈する8の中形の甕形土器及び鳥帽子形長胴と球形のものがあり、他小形甕形土器(9)・把手付甕形の堀形土器とでも呼称されよう平底の土器(10)等がある。これらは床面からの出土であり一括資料として重要である。3は高壺の壺形土器への転用で、底部が擦り切られる。甕形土器の整形は刷毛様ヘラ状工具によるなで付けが施される他ヘラ削り手法がとり入れられる。ここで特に注意しておきたいのは、第1号住居址で気が付いたことであるが、第17図1・2は外面に再度水瀧粘土を塗り付け整形するもので新知見のものである。石器としては第28図の叩石が1点出土する。

## 2. 第34号住居址（第4・18図、第3図版）

**遺構** 第33号住居址の南側に隣接する。主軸がS-52°-E方向にあり、その規模が3.60×3.85mの方形を呈するプランになる。掘り込みは南壁が深く45cmを測り、北側は浅く27cmである。床面は平坦で軟弱である。柱穴は4個で方形配列になる。規模は30cm前後で深さ6～13cmと浅い。カマドは東壁中央にあるが、破壊されているのか、主軸方向に60cm・巾50cmの焼土を残すのみである。西壁に2個の柱穴があるが、埋土から後のものと思われる。遺物はカマド周辺より出土している。

**遺物** 出土量は少なく、須恵器の坏・高台付坏形土器・蓋形土器、土師器坏形土器・甕形土器片等がある。坏形土器底部の整形はヘラによるものである。

## 3. 第35号住居址（第5・18図、第3図版）

**遺構** 調査地のほぼ中央に位置し、南壁が長い台形状を呈するプランの住居址で、主軸は3.50×南壁3.95(西壁3.40)mを測り、その方向はN-45°-Wである。掘り込みは北壁35cm・南壁16cm・東壁12cm・西壁25cmで、床面は平坦で軟弱である。柱穴は4個確認されており、プラン同様台形状配列になる。径28～34cmで深さは10cm～16cmである。カマドは西壁中央付近にあり、規模は比較的小さい主軸45cm・巾75cmの粘土製両袖形のものである。煙道は外へ55cm伸びる。貯蔵穴はカマドの左右にあり、橢円形でピット状になる。右のものは長軸60×短軸43×深さ23cmで、左側は120×45×14.33cmを測る。遺物はカマド周辺からの出土が多い。

**遺物** 出土量は少なく、器種としては須恵器坏形土器・壺形土器・甕形土器片があり、土師器は内面黒色処理されたものを含む坏形土器及び甕形土器等である。図示したものは底部に糸切痕を残す須恵器坏形土器と肩が強く張る小形の壺形土器及び土師器の小・大形甕形土器である。甕形土器はロクロにより成形・整形され、大形のものは更に体部にヘラ削りが施こされる。

## 4. 第36号住居址（第5・19図、第4図版）

**遺構** 調査地中央付近の南端に位置し、南壁は未確認である。プランは不整方形を呈し、主軸4.15m測り、対軸はカマドの位置からこの数値より大きくなるものと思われる。主軸方向はN-70°-Wである。掘り込みは直に近く、北壁23cm・東壁17cm・西壁27cmを測る。床面は中央部が堅く踏み締められる他は軟弱で平坦である。柱穴は確認できなかった。カマドは西壁に設けられており、袖部先端に石を用いた粘土製両袖形のもので、その規模は主軸50cm・巾45

cm である。カマド内は焼土がつまり焚口に甕形土器の体部上半が立っていた。遺物は覆土からものが多く、またこれと混在して河原石が目立つ。

**遺物** 土師器壺形土器・甕形土器片が多いが、高壺形土器片が混じる。出土量は多くない。須恵器壺形土器が覆土より出土している。

#### 5. 第37号住居址（第5・18図、第5図版）

**遺構** 調査地西側に位置し、北側半分は調査区域外にある。プランは方形を呈するものと思われ、東西軸3.2cmを測る小規模なものである。掘り込みは直に近く、南壁27cm・東壁17cm・西壁25cmを測る。床面は平坦で軟弱である。柱穴は南壁に添って2個確認され、径30cm・深さ20cmである。

**遺物** 出土量は数点にすぎず、図示できるものは須恵器1点にすぎない。他は土師器壺形土器・甕形土器片である。底部の整形はヘラ削りである。

#### 6. 第38号住居址（第6・19図、第5図版）

**遺構** 北西端に位置し旧校舎便槽があり、また北半分が調査区域外に延びるため約半分のみ検出したにすぎない。プランは隅丸方形を呈し主軸5.65mを測る。主軸方向はN—70°—Wである。遺構確認面からの床面までの掘り込みは浅く、東壁で26cm・西壁はわずかに5cmを測る程度である。床面は平坦で軟弱である。柱穴は南壁に添って径42, 35cm深さ17, 22cmの2個あり方形配列になるものと思われる。カマドは確認できなかったが、中央より東壁よりに長軸52cmのわずかに落込む焼土（炉）があり、西壁よりも焼土が見られた。

**遺物** 須恵器壺形土器・蓋形土器・高壺形土器及び土師器甕形土器片が出土したが、その量は多くない。第19図10は高壺形土器で、脚部に3孔の透かしを有する。壺形土器の底部整形はヘラ削りによる。

#### 7. 第39号住居址（第6図、第6図版）

**遺構** 西側にあり第42号住居址を切る。方形プランの規模が主軸3.25×短軸2.80mで、主軸S—58°—Eを指す比較的小さな住居址である。掘り込みは直に近いが、北壁18cm・南壁16cm・東壁19cm・西壁15cmと比較的浅い。床面はいくぶん南に傾斜するが平坦で軟弱である。柱穴は径25~32cm・深さ7~10cmのものが4個検出したが、配列は不整方形である。カマドはなかったが、中央南壁よりに炭化物を伴う焼土があり、その部位はいくぶん凹む。遺物はすべての覆土中からの出土である。

**遺物** 出土量は少なく、図示できるものはない。土師器壺形土器・甕形土器、須恵器壺形土

器の器種があり、底部整形はヘラによる。

#### 8. 第40号住居址（第6・19図、第6図版）

**遺構** 調査地西端の群集遺構の中で最も新しい時期の住居址で、西壁南側約半分が35cm程張り出す方形プランになる。規模は主軸3.97×短軸3.90m測り、主軸方向はS—59°—Eである。掘り込みは直に近く、北壁35cm・南壁30cm・東壁45cm・西壁35cmを測り、比較的深い。床面は平坦で軟弱である。柱穴は4個確認され、径20~33cmで、深さ15~20cmで、方形配列になる。カマドは東壁中央にあったものと思われ、円形に張り出した部位に焼土を残し、わずかに凹む。遺物は覆土からのものが多い。

**遺物** 出土量は少なく、中でも須恵器壺形土器が目立つ。この他同種蓋形土器・高壺形土器、土師器甕形土器・壺形土器がある。壺形土器の底部整形はヘラ削りであり、高台は付高台である。

#### 9. 第41号住居址（第7・19・20図、第7・21図版）

**遺構** 調査地中央付近に位置し、形状等割合しっかりした住居址である。プランは主軸がN—56°—E方向を指す方形で、その規模は主軸7.00×短軸6.40mである。壁は直で、壁高は北35cm・南39cm・東28cm・西28cmをそれぞれ測る。床面は平坦で中央が部分的に堅く踏み固められる他は軟弱である。主柱穴は実測図断面に記した方形配列4個で、径35~65cm・深さ15~50cmとさまざまである。各壁添いにある径60~80cm・深さ25~32cmのピットは補助柱穴である。カマドは西壁中央に設けられて、主軸95cm・巾90cmを測る粘土製両袖形のものである。内には焼土層・灰混り焼土ブロック層・焼土ブロック状層がつまる。この他カマドを中心に西壁添いに焼土の散在がみられ、カマドからかき出したものであろう。遺物は覆土からの小破片が目立つ。

**遺物** 住居址の規模のわりには出土量は少なく、土師器壺形土器・高壺形土器・壺形土器（第20図1~2）甕形土器及び須恵器壺形土器（1点）の破片である。

#### 10. 第42号住居址（第8・20図、第8・21図版）

**遺構** 西端遺構群の1つで、第39・40号住居址に切られ、第43号住居址を内包する。プランは方形で、規模は主軸6.05×短軸6.00mであり、主軸方向はS—62°—Eを指す。掘り込みは直で、北壁12cm・南壁23cm・東壁24cm・西壁21cmを測る。床面は中央に向かい凹み気味で軟弱である。柱穴は北西コーナ付近で径48cm・深さ8cmのものを1個検出したのみである。カマドは西壁中央に設けられ、主軸80cm・巾80cmの粘土製両袖形である。内に焼土・灰混り

の青灰色土がつまり、中央に支石を有し上に甕形土器がのる。遺物はカマドを中心とし、西壁添いからのものが多い。

**遺物** 出土量は他の遺構と比べ多い。器種は土師器のみで壺形土器（第20図4）・大小の甕形土器（5～7）・高壺形土器がある。6は刷毛整形のち水瀧粘土で器面を再整形する。

#### 11. 第43号住居址（第8・24・26・29図、8・23図版）

**遺構** 第42号住居址内にある住居址で、西側遺構群の中で最も古い。プランは不整の隅丸方形で、東西軸4.20×南北軸4.35mを測り、S—62°—Eの方向をさす。壁はやや傾斜を有し、壁高は北で2cm・南3cm・東24cm・西4cmである。床面は平坦で軟弱である。柱穴は方形配列4個で、径20～35cm・深さ3～12cmのものである。焼土等の施設はなかった。

**遺物** 出土量は少なく、甕形土器（第24図2）が完形に近い他は破片出土である。図示したものの他に口唇部を縄文で飾り、体部に条痕文、沈線間を縄文を施す甕形土器、横位の沈線と縄文で文様を構成する壺形土器体部上半の破片が出土している。

#### 12. 第44号住居址（第6・20図、第21図版）

**遺構** 方形プランであるが、第40・45号住居址と重複し、南壁は調査区域外にある。東西軸4.33mの規模で、掘り込みは直に近く東壁で26cm・西壁12cmを測る。床面は平坦で軟弱である。北東壁下に長軸70×短軸45×深さ16cmのピットがある。他の施設はない。

**遺物** 出土量は少なく、図示できるものは土師器高壺形土器・水瀧粘土により再調整された甕形土器のみである。他の器種に高壺形土器が出土している。

#### 13. 第45号住居址（第6・20図）

**遺構** 西南端に位置し、北・東壁の一部のみの検出で、大部分は調査地域外にある。プランは方形になると思われる。壁はやや傾斜し、北で11cm、東（第44号住居址床面より）6cmの深さになる。

**遺物** 遺物量は少なく、図示した土師器・須恵器壺形土器片のみである。

#### 14. 第46号住居址（第9・20図、第9図版）

**遺構** 調査地中央南端に位置し、南壁は未確認である。プランは方形を呈し、東西軸3.05mである。壁は直に近く、壁高は北で34cm・東29cmである。床面は平坦で軟弱である。カマド等の施設はないが、中央付近に床面より4cm上に円形の焼土を残す。

**遺物** 出土量は少ない。土師器壺形土器・手捏形土器・甕形土器・高壺形土器の器種がある。

#### 15. 第47号住居址（第9・21図、第10・21図版）

**遺構** 東端にあり、第50号住居址を切り、第48号住居址により切られる。北壁・東壁は未確認である。プランは方形を呈するものと思われる。主軸方向はN—50°—Wである。掘り込みは直に近く、南壁17cm・西壁18cmを測る。床面は平坦で軟弱である。柱穴は南西部に径55cm・深さ30cmのもの1個確認したのみで、他のものは後世の柱穴である。カマドは西壁中央付近にあり、粘土製両袖形であるが、柱穴により右側袖部が破壊される。主軸65cmである。遺物出土地点については第9図に記したとおりカマド及び西壁下に集中する。カマド右側に長楕円形河原石の集石がある。

**遺物** ほぼ完形に近いものが多く、そのほとんどが長胴の甕形土器である。この他器種として瓶形土器・壺形土器・高壺形土器がある。甕形土器のうち第21図6・7には水瀧粘土による再調整が施される。

#### 16. 第48号住居址（第10・22図、第11・22図版）

**遺構** 調査地東端にあり、東側半分は未調査である。第47・53号住居址を切る。プランは方形を呈するものと思われ、南北軸6.05cmを測る。主軸方向N—33°—Wはである。掘り込みは直に近く、北壁33cm・南壁27cm・西壁20cmを測る。床面は平坦で軟弱である。柱穴は南西部から径50cm・深さ63cmのものを1個確認したのみである。カマドは西壁中央にあり、長軸85cm・巾85cmの規模の粘土製両袖形である。内から蓋形土器・甕形土器片が焼土に混り出土した。遺物は第10図に示したとおりカマド周辺及び西壁近くより出土した。集石は南西隅付近にみられ、長軸10cm内外の長楕円形河原石である。他からの出土は少ない。

**遺物** 出土品は圧倒的に須恵器が多く、土師器では甕形土器が目につく程度の出土である。須恵器壺形土器は無台と高台付のものがあり底部にヘラ削り痕を残す。同種蓋形土器は大形扁平で、扁平擬宝珠形のツマミがつき、先端は嘴状になる。この他同種高壺形土器・大形甕形土器が出土している。

#### 17. 第49号住居址（第10・22・29図、第12・23図版）

**遺構** 東側遺構群の一つで、複雑に重複しているため、調査に困難極めた地域で、本住居址の調査中に再検討を加えたため、東壁の一部は後に確認したもので本来の姿でない。プランは方形を呈し、その規模は主軸3.30×対辺軸3.80mで、南北に長い。主軸方向はN—44°—Wであ

る。壁はやや傾斜し、その高さは北（第51号住居址床面）で10cm・南22cm・東（第56号住居址床面）7cm・西24cmを測る。床面はカマド前面及び中央部がいくぶん凹み、軟弱である。カマドは西壁南隅近くにあり、主軸55cm・巾75cmの粘土製両袖形で、袖先端に角礫を据えている。内に焼土がつまる。遺物はカマド周辺に多くみられる。

**遺物** 出土量はそれ程多くはないが、須恵器壺形土器・蓋形土器、土師器甕形土器等の破片が目立ち、土師器壺形土器片はわずかである。壺形土器に無台及び高台を付すものがあり、底部の整形はヘラ削りである。この他土鍤が床面近くから、砂岩製の凹石が覆土より出土している。

#### 18. 第50号住居址（第9図）

**遺構** 第47号住居址に切られ、南壁の1部のみ検出した住居址で、大部分は調査区域外にある。壁は直に近く、高さは15cmである。

**遺物** 土師器内面黒色壺形土器・甕形土器片が数点出さしているにすぎない。

#### 19. 第51号住居址（第11・22図、第12・22図版）

**遺構** 第49号住居址の頃で記したとおり全容を知ることはできなかったが、プランは方形で、東西軸4.95mを測る。主軸方向はN—45°—Eである。壁は直に近く、北壁で35cm・東壁27cm・西壁28cmの高さがある。床面は平坦で軟弱である。柱穴は北壁に添って2個検出され共に径35cm・深さ13cm前後である。カマドは北壁中央にあり、主軸60cmの粘土製両袖形のものであろうが、調査時には右袖が破壊されていた。西壁下に甕形土器が横転していた。

**遺物** 出土量は少ない。器種としては図示した土師器壺形土器・甕形土器の他に内面黒色処理された高壺形土器がある。

#### 20. 第52号住居址（第11・23・24図、第13・22図版）

**遺構** 調査地中央付近に位置し、柱穴群と一部重複するが、他の遺構と重複しない唯一の住居址である。プランは北壁西側が内傾する方形を呈する。主軸4.60×南北軸4.60mで、主軸方向はN—36°—Wである。掘り込みは直に近く、西壁が最も高く39cmを測り、最も低い東壁が14cmである。床面は平坦で軟弱である。柱穴は南西隅を除き各隅で検出された。径は28~55cmで、深さ12~15cmを測る。カマドは西壁中央にあり、粘土製両袖形で規模は主軸が65cm・巾75cmである。中央に支脚石がある。遺物は第11図に示したとおりカマド内及び南西隅付近より集中して出土している。覆土からの遺物は少ない。

**遺物** 器種・個体数をみると土師器壺形土器10個体・高壺形土器6個体・甕形土器3個体で

ある。

#### 21. 第53号住居址（第12図）

**遺構** 東端に位置し、第48号住居址によって切られているため西壁・南壁の一部のみの検出である。プランは方形となるものと思われ、その掘り込みは浅く8cmである。

**遺物** 土師器内面黒色椀形の壺形土器が2点出土したのみである。

#### 22. 第54号住居址（第12図、第14図版）

**遺構** 第52・47号住居址に接し、第51号住居址によって切られる住居址で、規模が主軸5.40×東西軸5.65mであり、N—43°—Eの主軸方向をとる。掘り込みは直に近く、壁高は北で高く35cm、西が低く21cmをはかる。柱穴は3個確認され、方形配列になる。径は25~30cm・深さ24~35cmである。カマドは主軸85cm・巾75cmの袖先端に角礫を用いた粘土製両袖形で、北壁中央に設けられる。中央に支脚石があり、カマド前面は平坦な石を立て遮蔽する。

**遺物** しっかりした住居址の割には出土遺物が少なく、図示できる遺物はない。土師器壺形土器・高壺形土器・甕形土器片がある。

#### 23. 第55号住居址（第12・24・27図、第15・23図版）

**遺構** 調査地中央南端にあり、南壁は未確認である。第36・46号住居址によって切られる。土壙5・6を内包する。プランは不整方形で、東西軸4.2mを測る。掘り込みは直に近く、西壁で33cmを測る他は9cmである。柱穴は2個あるが不整形である。床面は平坦で軟弱である。炉は住居址中央付近に焼土が残っておりこれをあてる。

**遺物** 出土量は比較的多いが、そのほとんどが破片である。赤色塗彩された高壺形土器と口縁部が受口になり、波状文・交差する斜行条線・鋸歯文をめぐらし、頸部に細く鋭い平行沈線文・波状文下に鋸歯文を、平行条線と羽状条線に鋸歯文を組合せたもの、ボタン状突起を貼付したもの等の壺形土器及び簾状文・波状文を主体とする甕形土器の器種がある。胎土に小砂石を含み、焼成は良い。

#### 24. 第56号住居址（第13・24・26図、第15図版）

**遺構** 調査地東側南端に位置し、第49号住居址・土壙7に切られる。南壁は未確認であるが方形を呈すると思われる。東西軸5.60mを測り、方向をN—29°—Wを指す。掘り込みは直に近く、東壁で41cm・西壁で43cmの壁高である。柱穴は不明である。炉は中央付近の65×45cm

の焼土をもってあてる。床面はこの焼土を中心に堅く踏み固められている他は軟弱である。

**遺物** 出土量は少ない。赤色塗彩される高壙形土器・蓋形土器があり、壺形土器は頸部に横位の沈線・簾状文下に交差する条痕文・鋸歯文で飾られ以下は無文になる。甕形土器には受口口縁で縄文地に二列の山形をめぐらすものと波状文を基調とするものがある。胎土に小砂石を含み、焼成は良好である。

#### 25. 第57号住居址（第13・24・26・29図、第16・24図版）

**遺構** 調査地中央に位置する。方形周溝墓追求中に発見したもので、北西隅を破壊するが、全体のプランは楕円形に近い隅丸方形を呈する。主軸方向はN—40°—Eを指し、規模は主軸4.45×短軸3.25mである。壁はやや傾斜し、深さは北壁25cm・南・東壁11cm・西壁14cmである。床面は平坦で軟弱である。炉は中央南壁よりにあり、径35cmの焼土を残す。

**遺物** 出土量は少ない。壺・甕・高壙形土器の器種がある。壺形土器体部は無文のものと体部屈曲部まで平行沈線・山形沈線文と磨消縄文及び列点文が各様に組み合せ文様帶を構成する。甕形土器は口辰部に縄文が体部を斜行条線により飾られるものと口縁部から体部にかけ波状文によるものがある。胎土に小砂石を含み、焼成は良い。石器は床面近くより2円孔を有する半月形の磨製石包丁が2点出土した。

#### 26. 第58号住居址（第13・25図、第23図版）

**遺構** 調査地中央北端に位置し、北壁は調査地外に、東壁は方形周溝墓により切られるが、プランは隅丸方形を呈するものと思われる。掘り込みは直に近く、南壁17cm・西壁18cmを測る。炉は壺形土器体部上半を地中に逆位に埋めたもので、周囲に80×40cmの楕円形の焼土がある。床面は平坦で軟弱である。

**遺物** 出土量は少なく、器種として炉に使用された壺形・高壙・甕形土器がある。頸部から体部上半までの破片で、文様はハ又はX字状の文様を基点に斜め上下の同文に終結するようにならうな浅い直線的条線であり、下部に2本の平行沈線間を列点文で装飾される。胎土に石英粒・小砂を含み、焼成は良い、色調は下半が赤褐色を呈し、上半はススけているためか黒褐色である。高壙形土器は赤色塗彩される。

### 第2節 方形周溝墓(第14・28・29図、第17・24図版)

**遺構** 調査地中央北側に位置し、第58号住居址を切り、溝址に切られる。周溝プランは隅丸方形を呈するが、全周しなく北側中央に所謂陸橋部を設ける。溝端間の規模は主軸が6.70×東西軸6.80mで、陸橋部巾は90cmを測る。主軸方向はN—42°—Eである。溝はU字形になると

思われるが、北で26cm・南で11cm、東で16cm・西で12cmと浅く全容の把握はできなかつた。溝底は東西半分が北に傾斜し、他は平坦である。溝巾は北で1.40m・南で0.75m・東で0.95m・西で0.90mを測る。主体部は遺構中央にあり、主軸 $1.8 \times$ 短軸0.7m、深さ21cmの隅丸方形に近いプランで主軸は溝主軸と逆のN—40°—Wを指す。覆土は暗黄褐色を呈し、内からの出土遺物はない。この他陸橋部に径30cmの焼土が認められる。北・南の溝内に各1個のピットが認められたが、覆土・出土遺物から本遺構より後世のものである。溝中からの出土遺物は、南東隅付近から溝址をはさんで、左からヒスイ製の垂玉右から管玉が出土した。

**遺物** 出土量は少なく、ヒスイ製垂玉・管玉の他は壺形土器・甕形土器・鉢形土器の小破片である。壺形土器は体部の破片で、横位の沈線と縄文及び押し引き列点文が施こされ、甕形土器には波状文及び斜行条線文で飾られる。胎土に小砂石を含み、焼成は良い。

### 第3節 土 壤

#### 1. 土壙5（第12・25図、第15図版）

**遺構** 第55号住居址内にあり、新旧は不明である。プランは南北に長い楕円形を呈するものと思われるが、南半分は未確認である。東西軸は1.05mで、深さは第55号住居址床面下35cmを測る。

**遺物** 赤色塗彩された壺形土器、簾状文をめぐらす甕形土器各1点が出土したのみである。

#### 2. 土壙6（第12図、第15図版）

**遺構** 第55号住居址内にあり、焼土を切っているため本遺構のほうが新しい。ピットを2つ合わせたような不整楕円のプランになり、主軸（南北） $1.25 \times$ 短軸0.70mの規模である。掘り込みは傾斜があり、深さは第55号住居址床面下10cmである。

**遺物** 波状文を有する甕形土器小破片他が数点出土したにすぎない。

#### 3. 土壙7（第13・25図、第15図版）

**遺構** 第56号住居址の内にあり、住居址の貼り床が覆うことから住居址より古い。プランは隅丸長方形で、N—37°—Eに長軸をとる。 $2.55 \times 1.67$ cmの規模の土壙である。壁は傾斜し、北で深くを34cmを測り、南に向け勾配を増し、南端は住居址の床面と同じになる。

**遺物** 出土量は少なく、波状文の甕形土器・赤色塗彩された高壺形土器の壺部破片が出土しているにすぎない。

#### 第4節 柱穴群(第15図, 第16図版)

**遺構** 調査地の西側にも一部みられたが、東側に集中する。円形に近いものが多く、径40～65cm前後で、深さ10～80cmのものまで多種多様である。中には角柱痕と思われるものを内包したものがあるが、柱列として規定できるものはない。

**遺物** 出土量は少なく、弥生時代土器片の他土師器・須恵器の壺形土器片・甕形土器片が出土したにすぎない。

#### 第5節 溝状遺構(第14図, 第17図版)

**遺構** 方形周溝墓・第57号住居址を切る。南北方向にU字形に掘られ、底は平坦で軟弱である。長さ5.32m・巾0.8m・深さ38cmを測る。

**遺物** 丹塗高壺形土器・壺形土器の小破片が数点出土しているにすぎない。

#### 第6節 その他の遺物(第25・28・29図, 第23図版)

遺構に伴なわない遺物はそれ程多くない。比較的多く目につくのは底部がヘラ削りされた壺形土器、須恵器大形甕形土器、土師器高壺形土器・甕形土器の各破片で、底部に糸切りを有する壺形土器及びロクロ成形された土器は少なく、灰釉陶器は椀形のもの1個体分確認したにすぎない。第25図8～10に示した土器は西端の調査地外出土したもので一括土器である。遺構の確認を行なったが、偶然にもこの土器が出土した場所のみがプライマリーの状態であったため、どのような遺構であったのか不明である。器種は球形胴・平底で有段口縁の壺形土器、脚に3円孔を有する高壺形土器、口縁部が短かく袋状の小形丸底形土器の三種である。この他土製支脚が包含層より出土した。第29図1は頁岩製の打製石鎌で第30号住居址からの出土で、9は第23号、11は第1号住居址から出土したものである。その他は今回の調査で採集したもので、粘板岩製の磨製石包丁(7)・緑泥岩製の太形蛤刃石斧(8)、それに時期不明の砥石(12)が各1点出土している。

## 第4章 結 語

第2次調査の結果を整理することにし、総括は第3次調査報告書でまとめたい。

**遺構** 狹い調査地の中で住居址26軒、方形周溝墓・溝各1基・土壙3基及び柱穴群を調査検出したことは、遺跡群の中心的位置にあたるのであろう。これらの遺構は互に重複関係にあるものが多いので、住居址を中心に新しいものから順次整理すると、48→47(53)→50、(柱穴群)→49→51→54→56→土壙7、34→柱穴群→方形周溝墓、35→57、36→46→55、41→溝→方形周溝墓(57)→58、40・(39)→42→43、40(45)→44になる。更にこれと遺物から各時代別に分類すると平安時代—35の1軒、奈良時代—48・49・34・37・38・39・40・45の8軒及び柱穴群(?),古墳時代—53・47・50・51・54・52・36・46・41・42・44の11軒、弥生時代—56・55・57・58・43の5軒・方形周溝墓、溝、土壙5~7の3基である。平安時代の遺構が1カ所のみで奇異に感ずるとともに、今まで検出例の少ない奈良時代の遺構が多いのに気がつく。奈良時代の住居址は大小あり、方形プランを有するものが多い。カマドは壁中央に粘土製両袖形のもの(48・49)と破壊されているのか、独自のものかは不明であるが壁が張り出しその内・下に焼土を残すもの(34・40)があり、また中央壁よりに焼土を残す地床炉的なもの(38・39)がある。古墳時代の住居址も多く、41の一辺7m前後のものを最大に、5~6m代のものが目立つ。プランは33の隅丸方形の他は方形を呈する。カマドは西壁に設けるもの(47・52・36・33・41・42)と北壁に構えるもの(51・54)があり、時間差を感じさせる。ともに袖石・支脚石を有する粘土製両袖形で、54には遮蔽石を裾える点、珍らしい例である。主柱穴は4個を基本とするが33・36・46・44からは検出できなかった。床面は平坦で軟弱なものが多い。弥生時代の住居址は方形の56を除き他は隅丸方形を呈し、43のみに4本柱の痕跡がある。炉は地床炉で58は埋甕(壺)炉である。56の床面は堅く踏み固められている。この時期の新発見として方形周溝墓がある。県下の沖積面での検出は初めてで、陸橋を1カ所設けるという形式のものである。溝址も掘り方、規模から方形周溝墓の可能性もある。方形周溝墓の時間的位置は58よりも新しく、57と近似した時期(弥生時代中期)をその重複関係から与えることができよう。

**遺物** 弥生時代・平安時代の遺物は少なく古墳時代、奈良時代の遺物が圧倒的に多く出土している。奈良時代では須恵器坏・高坏形土器が土師器のそれを量的に凌駕する。逆に煮沸用の甕形土器は土師器のみで、貯蔵用の須恵器と区別して使用されていたようである。古墳時代では33にみられるように日常使用していた器種がそろっており、編年上重要な位置を占めるものと思われる。また甕形土器に水滷粘土が器体に塗り付けられ再焼成される点、使用上再検討を要する新知見である。弥生時代遺物では方形周溝墓主体部からの遺物の出土がなかったのは残念であるが、溝中より垂玉・管玉を得たことは成果といえよう。58の炉使用の壺の文様であるが木の葉文を意図したのか、県下において新知見で、他地域の関連をうかがわせる。

## 出土土器一覧表

第33号住居址(第15・16図)

遺物番号	器種	法 量 (cm)			形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調		出土状
		器高	口径	底径					外面	内面	
1	高壺		14.2		脚部を失う 杯部は丸い	ヨコヘラミガキ、内面下部タテヘラミガキ	小砂石	良好	灰褐色	黒色	床面
2	壺	3.6	13.2	7.2	口縁部が外開	ヨコヘラミガキ 底部ヘラケズリ	小砂	〃	〃	灰褐色	〃
3	〃	5.1	17.4	14.4	高壺の底部を擦り切る 口縁部がやや外開	ヨコヘラミガキ 底部ヘラケズリ	〃	〃	〃	黒色	〃
4	〃		13.2		楢形 口縁部内弯気味	内面—ヨコヘラミガキ 外面—ヨコナデ	〃	〃	赤褐色	赤褐色	〃
5	甕	9.2	10.5	4.9	培形 口縁部外開 最大径を肩部にもつ	ヨコナデ、ヘラケズリ 内面—ヨコヘラミガキ	小砂石	〃	灰褐色	黒色	〃
6	〃		12.6		培形 口縁部やや外開 胴部球形	ヘラケズリ、ヨコナデ	〃	〃	赤褐色	赤褐色	〃
7	〃	20.4	13.6	5.7	胴部球形 口縁部直立にちかい	ヘラナデ、底部縁辺ヘラケズリ	〃	〃	灰褐色	〃	〃
8	〃	14.2	17.1	6.2	口縁部に最大径をもつ、口縁部外開 鉢形にちかい	刷毛状工具によるナデつけ ヨコナデ	〃	〃	赤褐色	暗褐色	〃
9	甕	12.9	15.4	3.1	胴部直線的 輪づみ痕がのこる	ヨコナデ、ヘラケズリのちナデ	〃	不良	灰褐色	灰褐色	〃
10	壺			7.2	把手付、胴部がふくらむ	ヘラナデつけ ヨコナデ	〃	〃	〃	〃	〃
11	甕		16.4		口縁部やや外開 胴部直線的	ヘラケズリ ヨコナデ	〃	〃	〃	赤褐色	〃
1	〃	40.4	20.1	7.6	下半部がふくらむ 鳥帽子形	刷毛状工具によるナデつけ ヨコナデ	〃	〃	暗褐色	暗褐色	カマト
2	〃	37.3	19.5	6.9	胴部直線的 口縁部が外反 鳥帽子形	刷毛状工具によるナデつけ	〃	〃	赤褐色	灰褐色	床面
3	〃	27.6	16.4	5.8	口縁部外反 鳥帽子形	ヘラケズリ ヨコナデ	〃	〃	〃	赤褐色	〃
4	〃		8.7		壺形 球形	ヘラナデつけ	〃	〃	灰褐色	灰褐色	〃

第34号住居址(第17図)

1	壺	4.8	13.6	6.6	口縁外反 平底	ロクロナデ ヘラキリ	小砂	良好	青灰色	青灰色	床面
2	〃			7.2	底部のみ平底	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	〃	〃	覆土
3	〃			10.1	高台付 底部が高台よりでる	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	黑灰色	黑灰色	〃
4	〃			5.0	丸底	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	灰綠色	灰綠色	床面

遺物番号	器種	法量(cm)			形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調		出土状況
		器高	口径	底径					外面	内面	
		5	蓋		16.8	天井部が低い	ロクロナデ 天井部ヘラケズリ(ロクロ)	小砂	良	青灰色	青灰色

第35号住居址(第17図)

6	壺	3.8	14	5.8	体部直線的 口縁やや外反 直線的に口縁に 底部なし	ロクロナデ 系切	小砂	良好	青灰色	青灰色	覆
7	々		17.6		口縁やや内弯	ロクロナデ	々	々	黒褐色	黒褐色	々
8	々	4.3	12.4	7.2	口縁やや内弯	ロクロナデ 系切	々	々	灰白色	灰白色	々
9	々	3.8	13.6	8.6	口縁やや内弯	ロクロナデ 系切	々	々	青灰色	青灰色	々
10	壺			6.1	肩がはる高台付	ロクロナデ 系切	小砂石	々	黒灰色	黒灰色	々
11	甕		13.4		胴球形にちかい	ロクロナデ	々	々	赤褐色	赤褐色	々
12	々		27.1		頸部がくの字に曲がる 頸部がくの字に曲がる 体部中央に最大径	ロクロナデ カキメ 体部ヘラケズリ ロクロナデ カキメ 体部ヘラケズリ	々	々	灰褐色	灰褐色	カマ
13	々		19.8			ロクロナデ カキメ 体部ヘラケズリ	々	々	々	々	々

第36号住居址(第18図)

1	高壺			11.8	脚部のみ直線的 口縁部が体部中央より外開 丸底	ヨコヘラミガキ ヨコナデ ヘラミガキ 底部ヘラケズリ	小砂	良好	灰褐色	灰褐色	床
2	壺	3.1	15.4		口縁部が体部中央より外開 丸底	ヨコヘラミガキ ヘラケズリ	々	々	々	々	々
3	々		15.4		口縁部が体部中央より外開 丸底	ヨコヘラミガキ ヘラケズリ	々	々	々	黒色	々
4	々		14.2		丸底 口縁外開 体部に棱をもつ	ヨコヘラミガキ ヘラケズリ	々	不良	々	々	々
5	々		15.9		丸底にちかい 口縁外開 体部に棱をもつ	ヨコヘラミガキ ヘラケズリ	々	々	々	々	々
6	々	4.7	13.4		丸底 口縁やや外開 口縁やや外開	ヨコヘラミガキ ヘラケズリ	々	良好	々	々	覆
7	々	7.6	13.1	5.8	平底 口縁やや内弯	ヨコナデ 体部ヘラケズリ	小砂石	不良	々	赤褐色	々
8	縛				球形 中央沈線の間にたたきめによる文様	ヨコナデ 底部ヘラケズリ	々	良好	青灰色	青灰色	々
9	甕		19.5		口縁部に最大径	ヨコナデ 体部ヘラケズリ	々	々	茶褐色	赤褐色	カマ

遺物番号	器種	法量(cm)			形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調		出土状況
		器高	口径	底径					外面	内面	

第37号住居址(第17図)

14	壺			7.6	丸底にちかい	ロクロナデ ヘラキリ	小砂	良好	茶褐色	茶褐色	床面
----	---	--	--	-----	--------	---------------	----	----	-----	-----	----

第38号住居址(第18図)

10	高壺		11.8		口縁部直線的 脚部に3つのすかし 丸底にちかい	ロクロナデ ヘラキリ ロクロナデ ヘラキリ	小砂石	良好	青灰色	青灰色	床面
11	壺			5.1			小砂	夕	灰白色	灰白色	夕
12	夕	3.7	14.7	9.6	高台付 口縁部が外開 丸底	ロクロナデ ヘラキリ ロクロナデ ヘラキリ	夕	夕	青灰色	茶灰色	夕
13	夕	4.6	13.2	9.1	口縁や外開	ロクロナデ ヘラキリ	夕	夕	灰白色	青灰色	夕
14	蓋	4.4	16.8		体部がふくらむ 擬宝珠付	ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ) ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ)	夕	夕	青灰色	青灰色	夕
15	夕				擬宝珠付	ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ)	小砂石	夕	夕	夕	覆土

第40号住居址(第18図)

16	壺	4.3	13.4	7.6	平底 口縁に直線的 丸底	ロクロナデ ヘラキリ ロクロナデ ヘラキリ	小砂	良好	灰白色	灰白色	床面
17	夕	4.7	14.5	7.7	口縁やや外開	ロクロナデ ヘラキリ	夕	夕	灰白色	灰白色	夕
18	夕			6.8	平底	ロクロナデ ヘラキリ	夕	夕	暗褐色	暗褐色	覆土
19	夕			13.2	高台付	ロクロナデ ヘラキリ ロクロナデ ヘラキリ	夕	夕	黑灰色	黑灰色	夕
20	蓋		21.1		天井部が丸味をもつ かえりが小さい	ロクロナデ 天井部ヘラケズリ(ロクロ)	小砂石	夕	青灰色	青灰色	夕
21	夕		13.3		かえりがない	ロクロナデ	小砂	夕	青灰色	青灰色	夕

第41号住居址(第18・19図)

22	高壺				ややふくらむ	ヘラミガキ ヨコナデ ヘラミガキ ヨコナデ	小砂	良好	灰褐色	灰褐色	床面
23	夕			7.5	底縁がやや外開		夕	夕	暗褐色	暗褐色	夕
24	壺		14.8	5.6	口縁に直線的 丸底	ヘラミガキ 底部ヘラケズリ	夕	夕	灰褐色	黒色	夕

遺物番号	器種	法量(cm)			形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調		出土状
		器高	口径	底径					外面	内面	
25	壺	9.7	9.8	6.1	口縁部が直線的 椀形	ヨコナデ ヘラケズリ	小砂	良好	赤褐色	黒褐色	床面
26	壺		11.4		口縁に段 やや外開	ロクロナデ	小砂石	々	青灰色	青灰色	覆土
1	々		11.8		口縁が直線的に外開	刷毛ナデ 輪積み痕がのこる	々	々	灰褐色	灰褐色	床面
2	々		11.7		口縁が直線的に外開	ヨコナデ	々	々	々	々	々
3	甕		14.4		口縁がややふくらんで外開	ヨコナデ ヘラケズリ	々	々	々	々	覆土

第42号住居址(第19図)

4	壺	7.1	12.8	5.4	口縁に直線的 頸部が直線 壺形 底部が厚い 球形胴	ヘラナデのちヨコナデ 底部ヘラケズリ ヨコナデ 底部ヘラケズリ	小砂	不良	灰褐色	灰褐色	床面
5	甕	12.5	10.4	5.3		刷毛ナデ	小砂石	良好	々	暗褐色	々
6	々			7.6	鳥帽子形 最大径を下部に	ヘラナデ 刷毛ナデ	々	不良	暗褐色	赤褐色	カマド
7	々	20.1	14.4	7.3	鳥帽子形	刷毛ナデ ヨコナデ	々	良好	赤褐色	々	床面

第44号住居址(第19図)

8	高壺				細身 指痕がのこる。	ヘラミガキ	小砂	良好	灰褐色	灰褐色	覆土
9	甕				鳥帽子形 脊部が直線的に下がる	ヨコナデ 刷毛ナデ ヨコナデ	小砂石	々	々	暗褐色	々

第45号住居址(第19図)

10	壺	5.4	13.1	6.1	口縁部やや外開 丸底 体部に棱	ロクロナデ ヘラキリ ヨコナデ ヘラケズリ	小砂	良好	青灰色	青灰色	覆土
11	々	4.4	11.8	5.2	平底		々	不良	灰褐色	灰褐色	々

第46号住居址(第19図)

12	壺	7.1	8.6	7.2	口縁部直線的 肩部がはる 指痕がのこる	ヘラケズリ ヨコナデ	小砂	良好	暗褐色	黒褐色	覆土
13	手握						々	々	灰褐色	灰褐色	々

遺物番号	器種	法量(cm)			形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調		出土状
		器高	口径	底径					外面	内面	
1	甕	26.8	17.1	7.6	鳥帽子形 口縁部やや外開 鳥帽子形 最大径を胴部にもつ 口縁部が外開	刷毛状工具による整形 ヨコナデ	小砂石	良好	赤褐色	灰褐色	床面
2	〃	15.8			鳥帽子形 最大径を口縁に 口縁部が外開	刷毛状工具による整形 ヨコナデ ヘラナデ	〃	〃	暗褐色	赤褐色	カマト
3	〃	16.7			鳥帽子形 最大径を胴部に	刷毛状工具による整形 ヨコナデ ヘラナデ	〃	〃	黒褐色	黒褐色	床面
4	〃	17.4			鳥帽子形 最大径を胴部に	刷毛状工具による整形 ヨコナデ	〃	〃	灰褐色	灰褐色	〃
5	〃	31.3			鳥帽子形 口縁部が外開	ヘラナデ 刷毛状工具による整形 ヨコナデ	〃	〃	暗褐色	黒褐色	〃
6	〃	19.6			鳥帽子形 口縁部が外開	刷毛状工具による整形 ヨコナデ	〃	〃	〃	暗褐色	〃
7	〃	21.9			鳥帽子形 最大径を胴下半部に	刷毛状工具による整形 ヨコナデ	〃	〃	〃	〃	〃
8	〃	6.4			鳥帽子形	刷毛状工具による整形 ヨコナデ ヘラナデ	〃	〃	〃	黒褐色	〃
9	〃	8.4			底部のみ	ヨコナデ ヘラナデ	〃	〃	灰褐色	暗褐色	〃
10	瓶	10.6	10.9	3.7	口縁がやや外開	ヘラケズリのちヨコナデ ヨコナデ	〃	不良	〃	灰褐色	〃
1	高環	11.3	15.9	12.6	脚部が底部ちかくで開く	ヘラキリ ロクロナデ	小砂	良好	灰青色	灰青色	床面
2	壺	4.4	13.3	8.4	口縁部やや外開 丸底にちかい	ヘラキリ ロクロナデ	〃	〃	灰緑色	灰緑色	〃
3	〃	7.1	15.2	8.3	椀形にちかい 口縁やや内弯	ヘラキリ ヘラケズリ ロクロナデ	〃	〃	青灰色	青灰色	〃
4	〃	4.1	18.4	14.1	高台付 口縁やや外開	ヘラキリ ロクロナデ	〃	〃	茶褐色	茶褐色	〃
5	蓋	2.7	19.8		扁平 嘴状のかえり 扁平擬宝珠付	ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ)	〃	〃	青灰色	青灰色	〃
6	〃	4.1	19.3		嘴状のかえり 扁平擬宝珠付	ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ)	〃	〃	〃	〃	〃
7	〃	2.8	19.4		扁平 嘴状のかえり 扁平擬宝珠付	ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ)	〃	〃	〃	〃	カマト
8	〃	18.1			扁平 嘴状のかえり	ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ)	〃	〃	〃	〃	〃

遺物番号	器種	法量(cm)			形態上の特徴	手法上の特徴	胎上	焼成	色調		出土
		器高	口径	底径					外面	内面	
9	蓋		16.1		扁平 嘴状のかえり	ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ)	小砂	良好	青灰色	青灰色	床
10	甕		18.2		胴部が開く 口縁部に棱	ロクロナデ タタキメ	小砂石	〃	〃	〃	〃
11	々		15.6		鳥帽子形 最大径が口縁に	刷毛状工具による整形 ヨコナデ	〃	〃	暗褐色	暗褐色	カマ

第49号住居址(第21図)

12	壺	4.6	13.2	6.6	口縁がやや外開 丸底	ロクロナデ ヘラキリ	小砂	良好	青灰色	青灰色	床
13	々	3.9	13.6	9.2	平底 直線的に口縁に	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	〃	〃	覆
14	々			7.6	平底	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	灰白色	灰白色	〃
15	々	3.4	15.9	10.2	高台付 口縁がやや外開	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	灰青色	灰青色	〃
16	々	9.8			高台付 口縁が直線的に	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	赤褐色	黒褐色	床
17	々	3.6	15.1	10.8	高台付 口縁が直線的に	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	青灰色	青灰色	覆
18	々	3.6	14.8	10.2	口縁がやや外開 高台付	ロクロナデ ヘラキリ	〃	〃	茶褐色	茶褐色	床
19	々			9.1	口縁が直線的に 高台付	ロクロナデ ヘラキリ ロクロナデ	〃	〃	灰青色	灰青色	覆
20	蓋		14.2		嘴状のかえりをもつ	ロクロナデ	小砂石	〃	〃	青灰色	〃
21	々				擬宝珠付	ロクロナデ ヘラケズリ(ロクロ)	〃	〃	青灰色	〃	〃
22	土鍤	7.0			円筒形 有孔		〃	〃	茶褐色	〃	〃
23	々	7.7			円筒形 有孔		〃	〃	〃	〃	〃

第50号住居址(第21図)

24	壺	6.6	13.7		丸底 口縁が外開	ヨコナデ ヘラケズリ	小砂	良好	暗褐色	暗褐色	床
25	甕	22.9	12.9	4.1	頸部がゆるやか 口縁がやや外開	ヘラケズリのちナデ ヨコナデ	〃	〃	〃	〃	〃

遺物番号	器種	法量(cm)			形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調		出土状況
		器高	口径	底径					外面	内面	
第52号住居址(第22図)											
1	高壇	10.7	14.8	12.1	口縁がやや内弯 脚部開く	ヘラミガキ 全体に暗文 ヨコナデ	小砂	良好	赤褐色	赤褐色	覆土
2	々	11.4	14.7	11.8	口縁やや外開 脚部底面ちかく外開	ヘラミガキ 全体に暗文 ヨコナデ	々	良好	灰褐色	灰褐色	カマ
3	々	13.1	17.3	12.3	直線的に口縁に、脚部が底面ちかくで開く	ヘラミガキ 外面全体に暗文 ヨコナデ	々	々	赤褐色	々	覆土
4	々		17.2		口縁がやや外開	ヘラミガキ 外面に暗文 ヨコナデ	々	々	灰褐色	々	床面
5	々		17.6		杯部のみ椀形口縁外開	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	赤褐色	赤褐色	覆土
6	々			11.6	大きく外開	ヘラミガキ 外面に暗文 ヨコナデ	々	々	々	々	々
7	壇	5.0	15.4		丸底、口縁がやや内弯	ヘラミガキ 内面に暗文 ヘラケズリ ヨコナデ	々	々	々	々	々
8	々	4.4	12.9		椀形 丸底	ヘラミガキ ヘラケズリ ヨコナデ	々	々	灰褐色	灰褐色	カマ
9	々	4.4	12.8		椀形 丸底	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	々	々	覆土
10	々	5.3	13.2		椀形 丸底	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	赤褐色	赤褐色	床面
11	々	4.5	13.8		椀形 丸底	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	灰褐色	灰褐色	々
12	々	4.3	13.7		椀形 口縁が外反 丸底	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	々	々	カマ
13	々	5.4	15.8		椀形 口縁が外反 丸底	ヘラミガキ カマジルシあり ヨコナデ	々	々	赤褐色	赤褐色	覆土
14	々		16.9		椀形 口縁が外開 丸底?	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	灰褐色	灰褐色	カマ
15	々	6.3	11.6		椀形 口縁が外開 丸底	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	々	黒色	覆土
16	々	9.2	19.1		椀形 口縁が外反 丸底	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	々	灰褐色	々
17	甕		15.6		鳥帽子形 口縁が外開	刷毛状工具による整形 ヘラケズリ ヨコナデ	小砂石	々	赤褐色	赤褐色	カマ
18	々		13.6		鳥帽子形 肩部に最大径をもつ	ヘラナデ ヨコナデ	々	々	々	々	々
1	甕	28.3	16.9	7.2	胴部に最大径をもつ 口縁が外反	ハケ状工具による整形のちナデ	々	不良	灰褐色	灰褐色	々

遺物番号	器種	法量(cm)			形態上の特徴	手法上の特徴	胎上	焼成	色調		出土状況
		器高	口径	底径					外面	内面	
第 53 号住居址(第 23 図)											
2	甕	30.6	24.1	6.8	最大径を口縁に 口縁やや外反	斜行条線文、平行条線文、列点文 ヘラナデ	小砂石	良	灰褐色	灰褐色	床面
第 55 号住居址(第 23 図)											
3	高壺			6.6	脚部直線的	ヘラミガキ ヨコナデ	小砂	良好	赤色	灰褐色	床面
4	々			7.5	脚部やや内弯	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	々	灰褐色	々
5	壺			20.6	口縁が大きく外反	ヨコナデ 平行条線文	小砂石	々	灰褐色	々	々
6	々				胴部から頸部に直線的	鋸歯文、波状文、ボタン状貼りつけ突起 ヘラナデ	々	不良	赤色	々	々
第 56 号住居址(第 23 図)											
7	高壺			18.9	口縁が大きく外反 体部が外弯	ヘラミガキ	小砂	良好	赤色	赤色	覆土
8	蓋			4.2	つまみ部	刷毛状工具による整形	々	々	茶褐色	茶褐色	々
第 57 号住居址(第 23 図)											
9	壺			10.4	胴下半部に最大径をもつ	刷毛状工具による整形のちヨコナデ	小砂石	良好	黄褐色	黄褐色	覆土
第 58 号住居址(第 24 図)											
1	高壺			18.6	やや内弯しながら口縁に	ヘラミガキ ヨコナデ	小砂	良好	赤色	赤色	覆土
2	々			9.2	杯の接合部失う	ヘラミガキ 刷毛状工具による整形	々	々	灰褐色	灰褐色	々
3	壺				ややふくらみながら底部に	全体に変形木葉文 ヨコナデ	小砂石	々	暗褐色	暗褐色	炉
4	甕			7.2	直線的	刷毛状工具による整形 ヨコナデ	々	々	々	々	覆土
土 坩 5 (第 24 図)											
5	壺			22.8	口縁に段をもつ	二本の沈線 刷毛状工具による整形 ヨコナデ	小砂	良好	赤色	赤色	

遺物番号	器種	法 量 (cm)			形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調		出土状
		器高	口径	底径					外面	内面	
6	甕				口縁が外反 胴部に最大径をもつ	簾状文、波状文、斜行条線文 ヨコナデ	小 砂	良好	灰褐色	灰褐色	

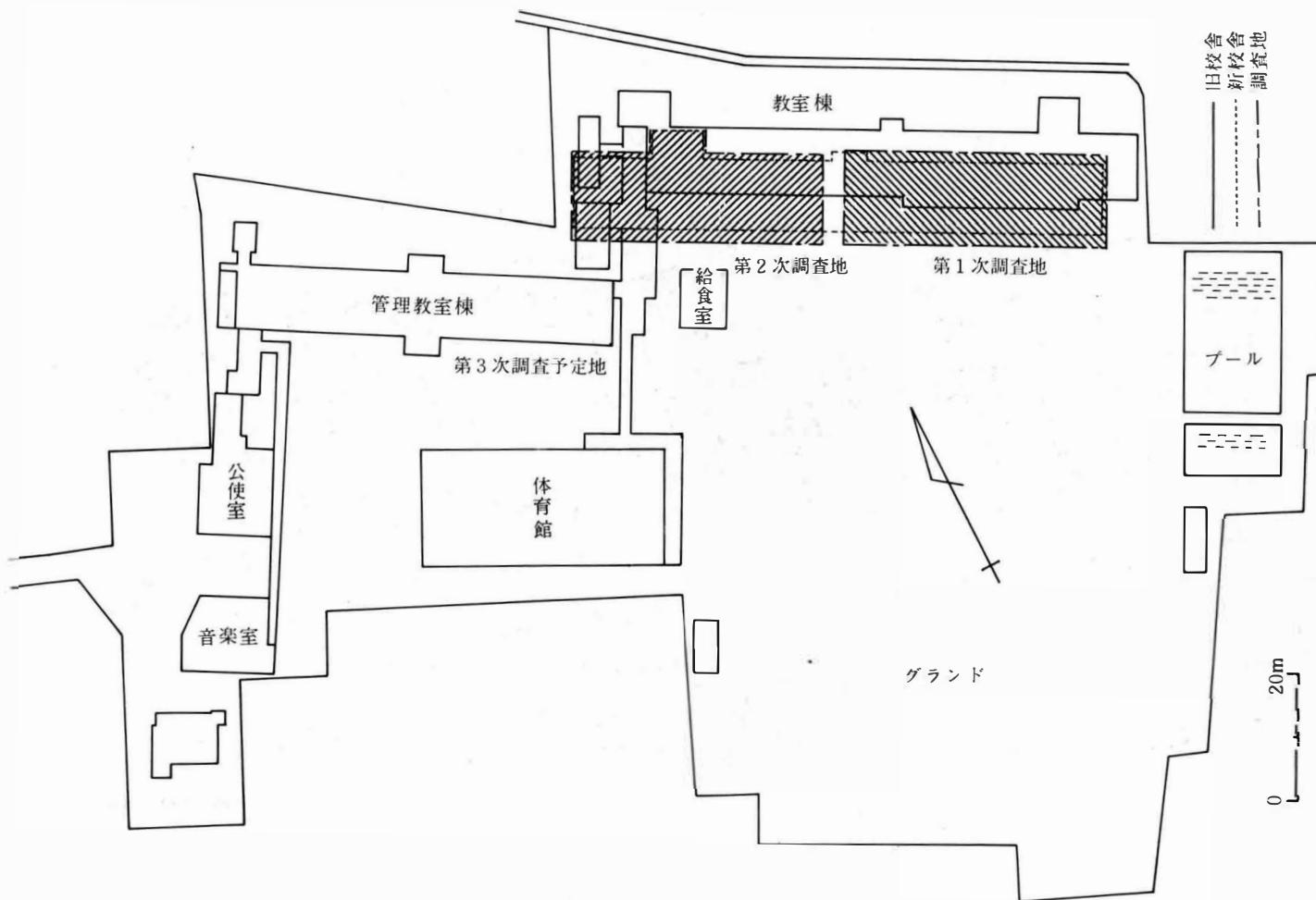
土 坩 7 ( 第 24 図 )

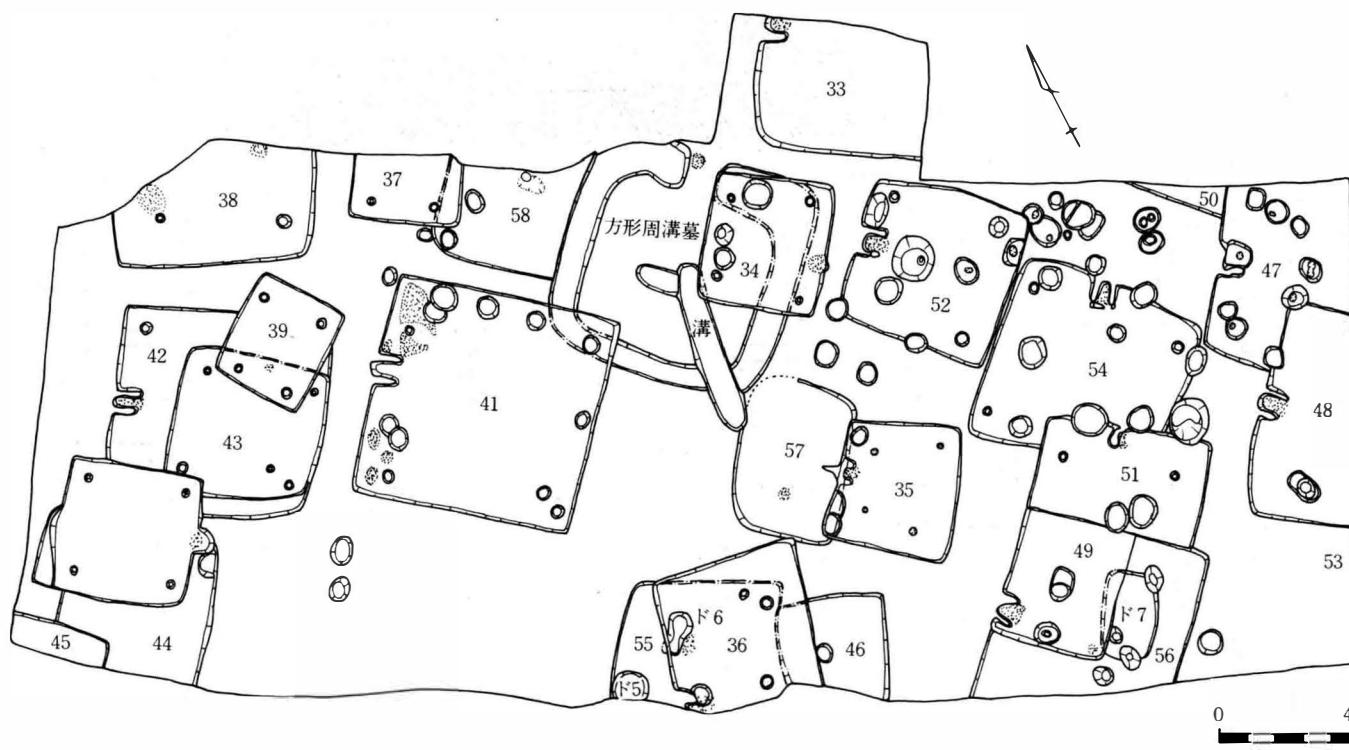
7	高坏	26.2		口縁部が外反	ヘラミガキ 穿孔が2ヶ所	小 砂	良好	赤 色	赤 色	
---	----	------	--	--------	-----------------	-----	----	-----	-----	--

その他の土器(第24図)

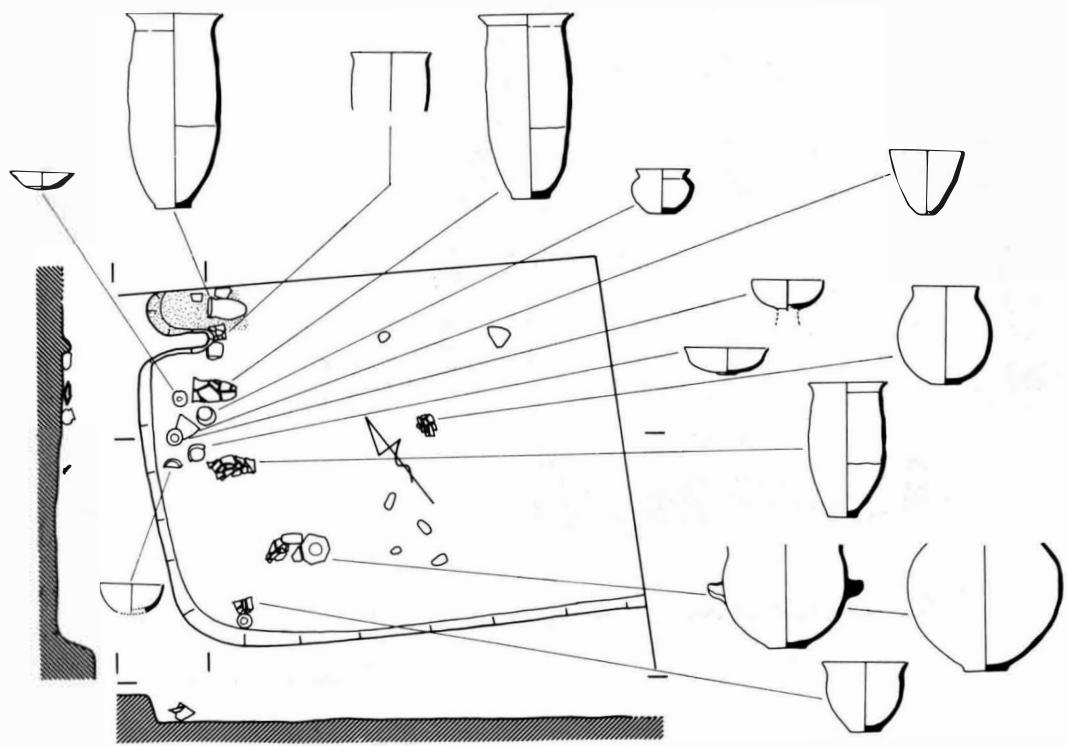
8	高坏	11.0	17.5	11.5	杯部、ややふくらみながら口縁に 脚部に3孔	ヘラミガキ ヨコナデ	小 砂	良好	赤褐色	赤褐色	
9	壺	10.4	9.5		小形丸底形土器 胴部に最大径	ヘラナデ ヨコナデ	々	々	灰褐色	灰褐色	
10	壺	28.9	19.6	7.1	胴部下部に最大径 有段口縁 頭部がながい	ヘラミガキ ヨコナデ	々	々	赤 色	々	

第2図 塩崎小学校々舍配置図及び調査地(1:1000)

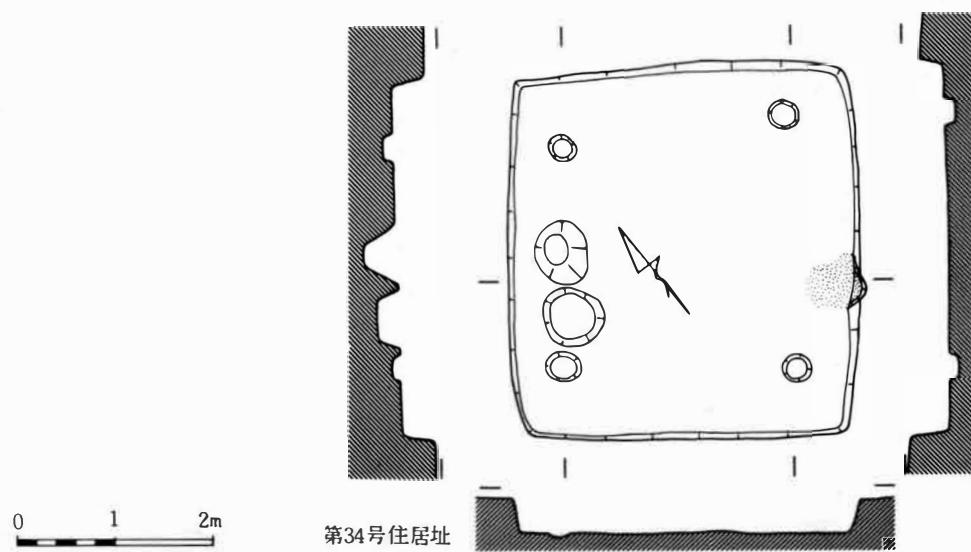




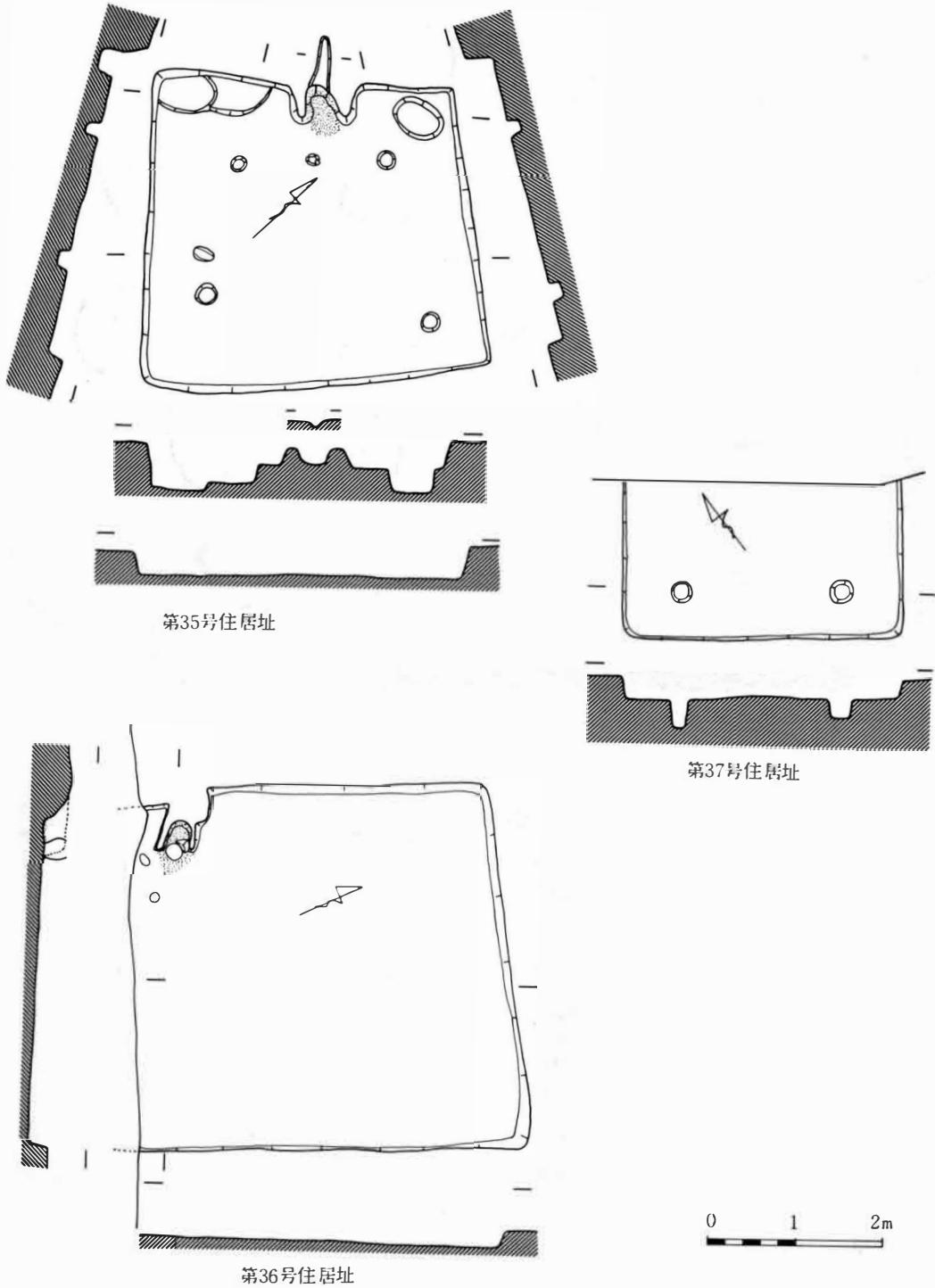
第3図 第2次調査遺構分布図(1:160)



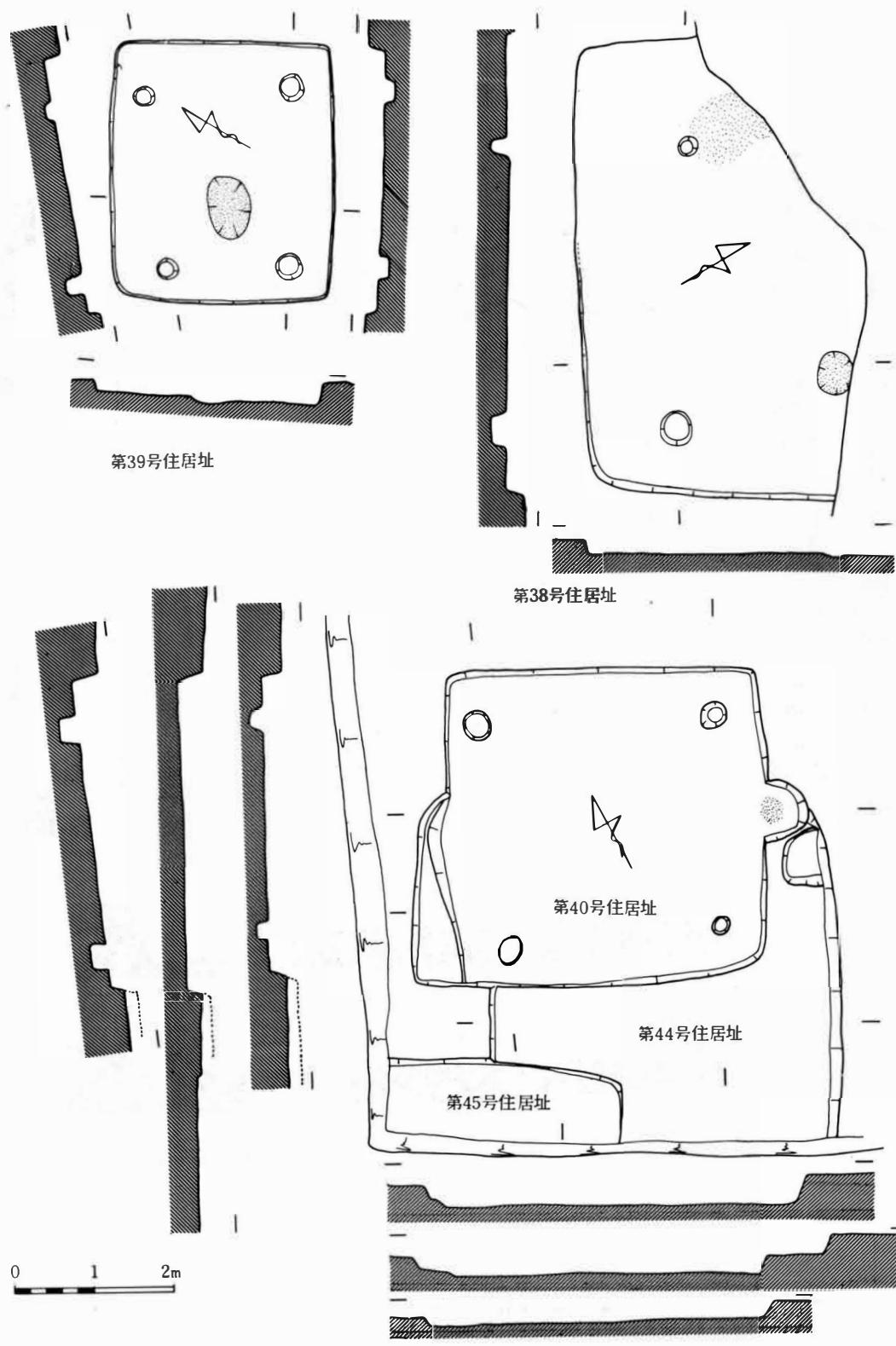
第33号住居址



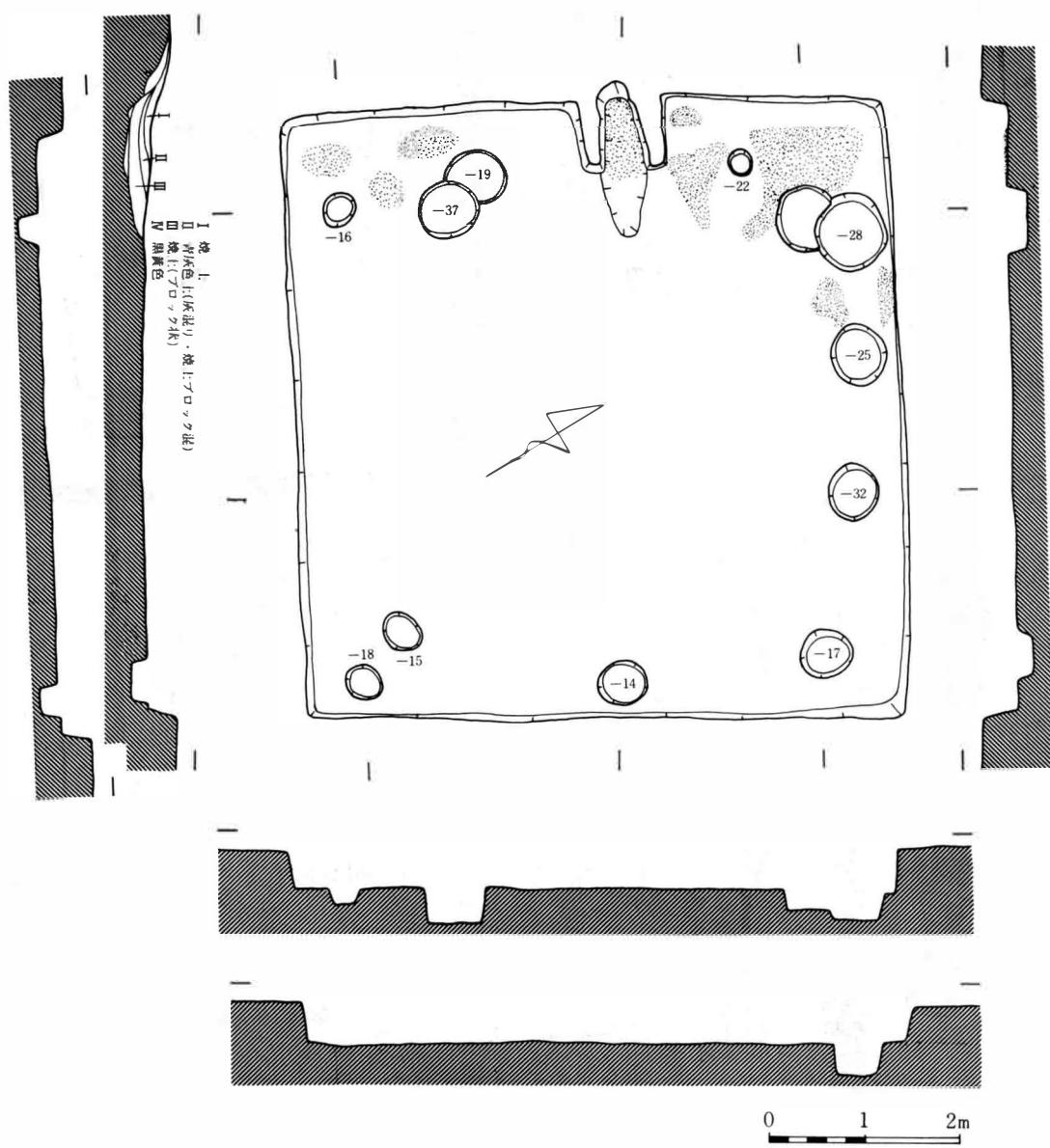
第4図 第33・34号住居址実測図(1:80)



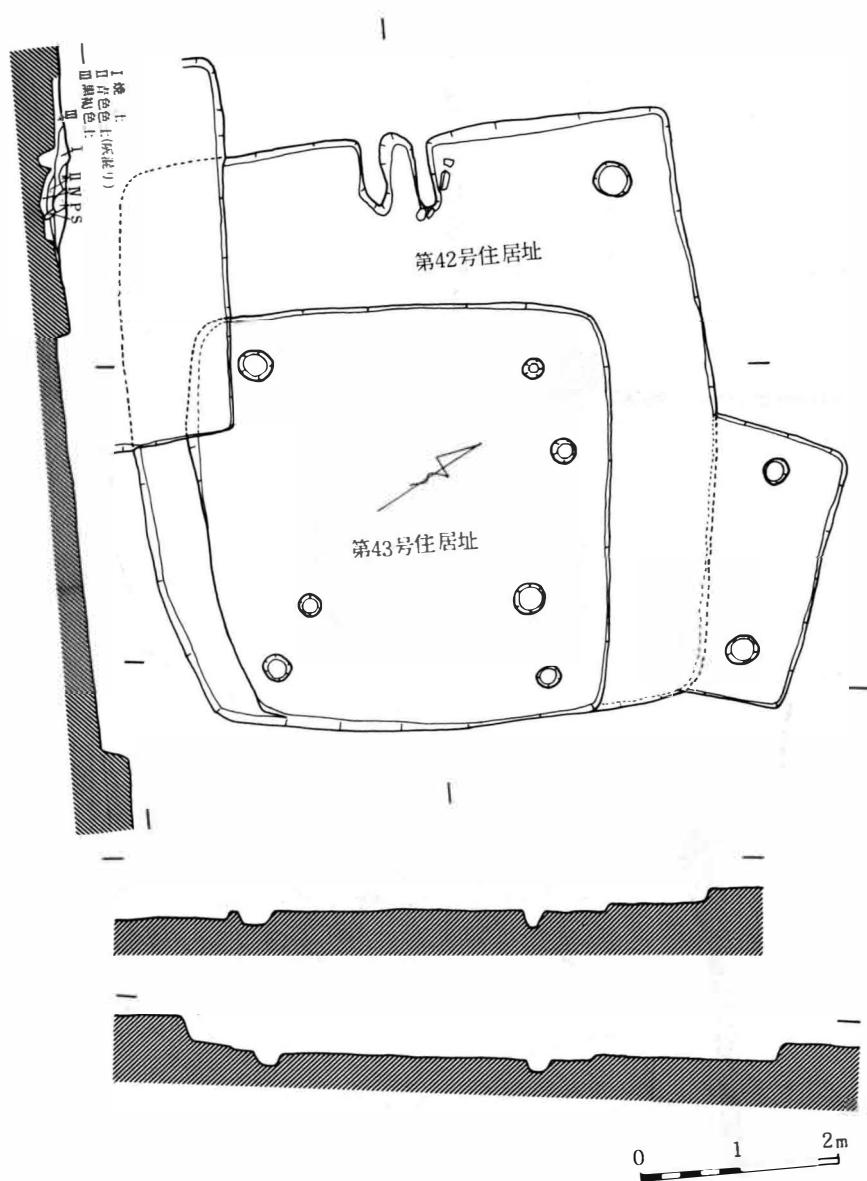
第5図 第35・36・37号住居址実測図(1:80)



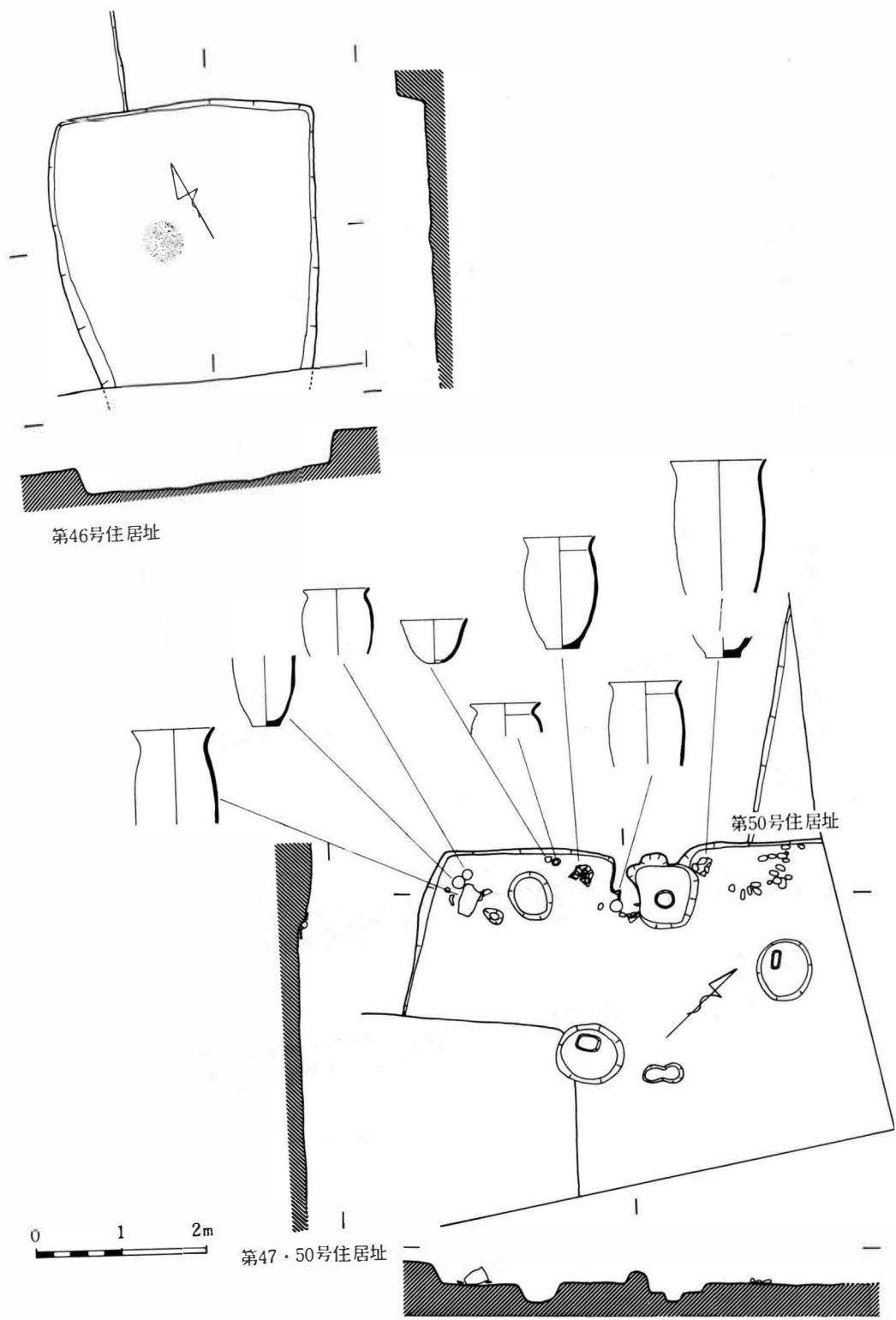
第6図 第38・39・40・44・45号住居址実測図(1:80)



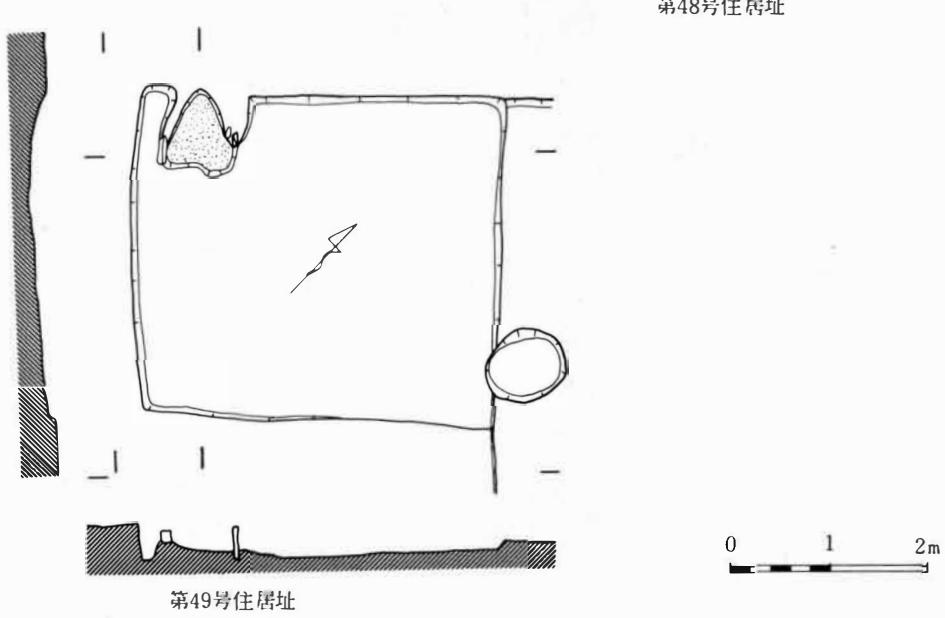
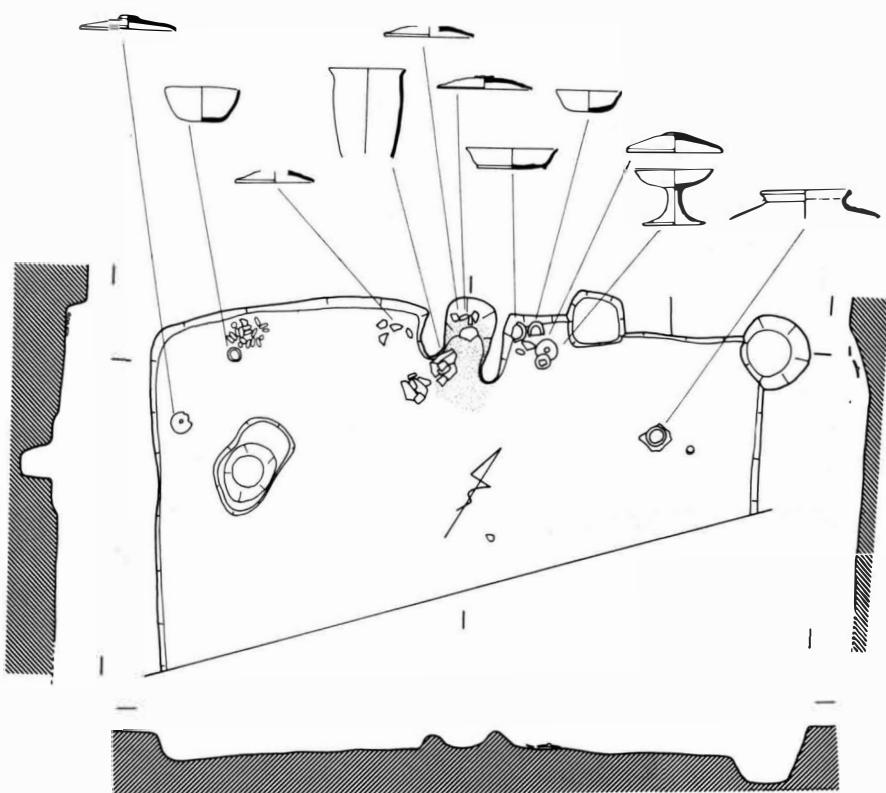
第7図 第41号住居址実測図(1:80)



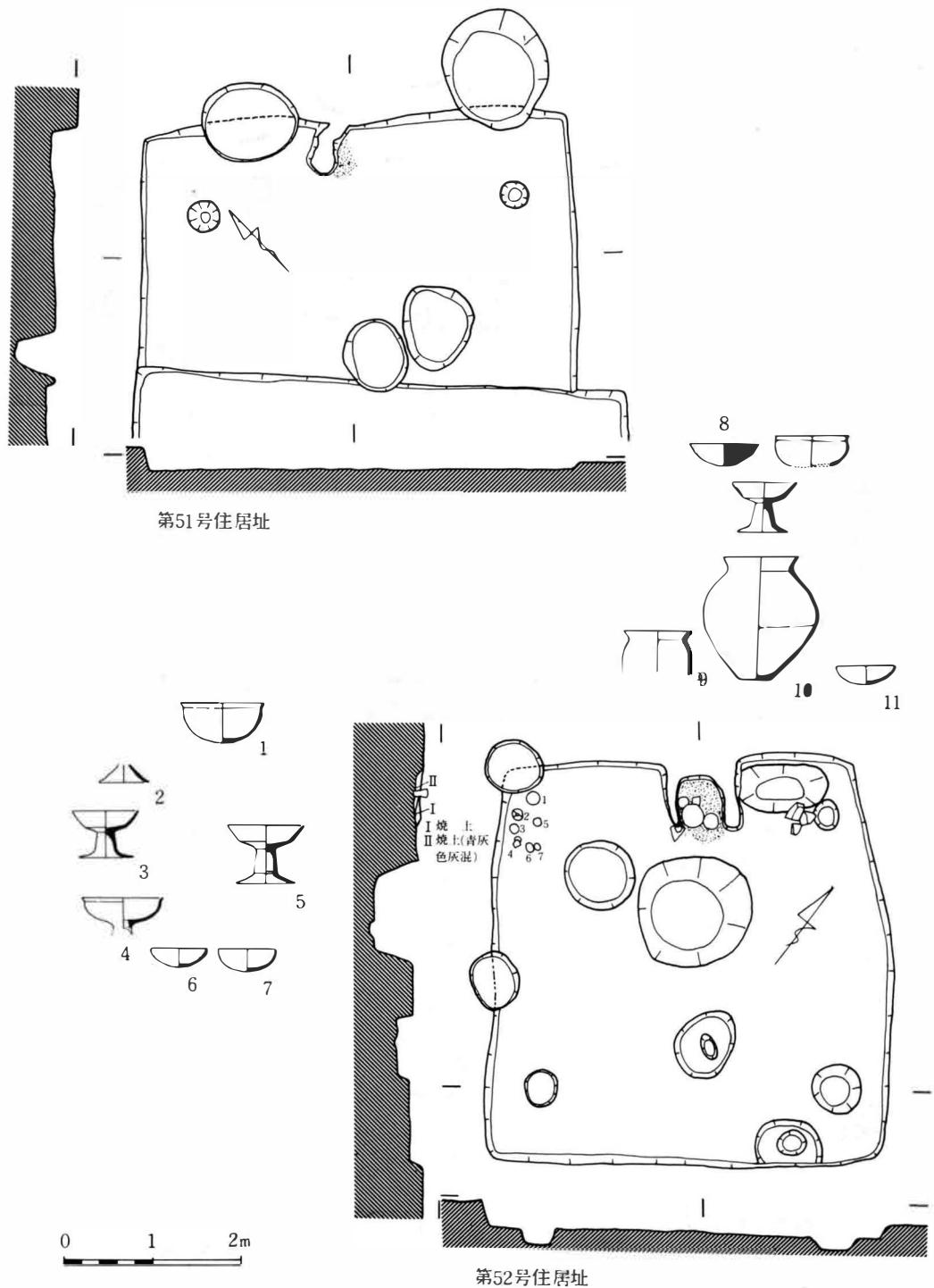
第8図 第42・43号住居址実測図(1:80)



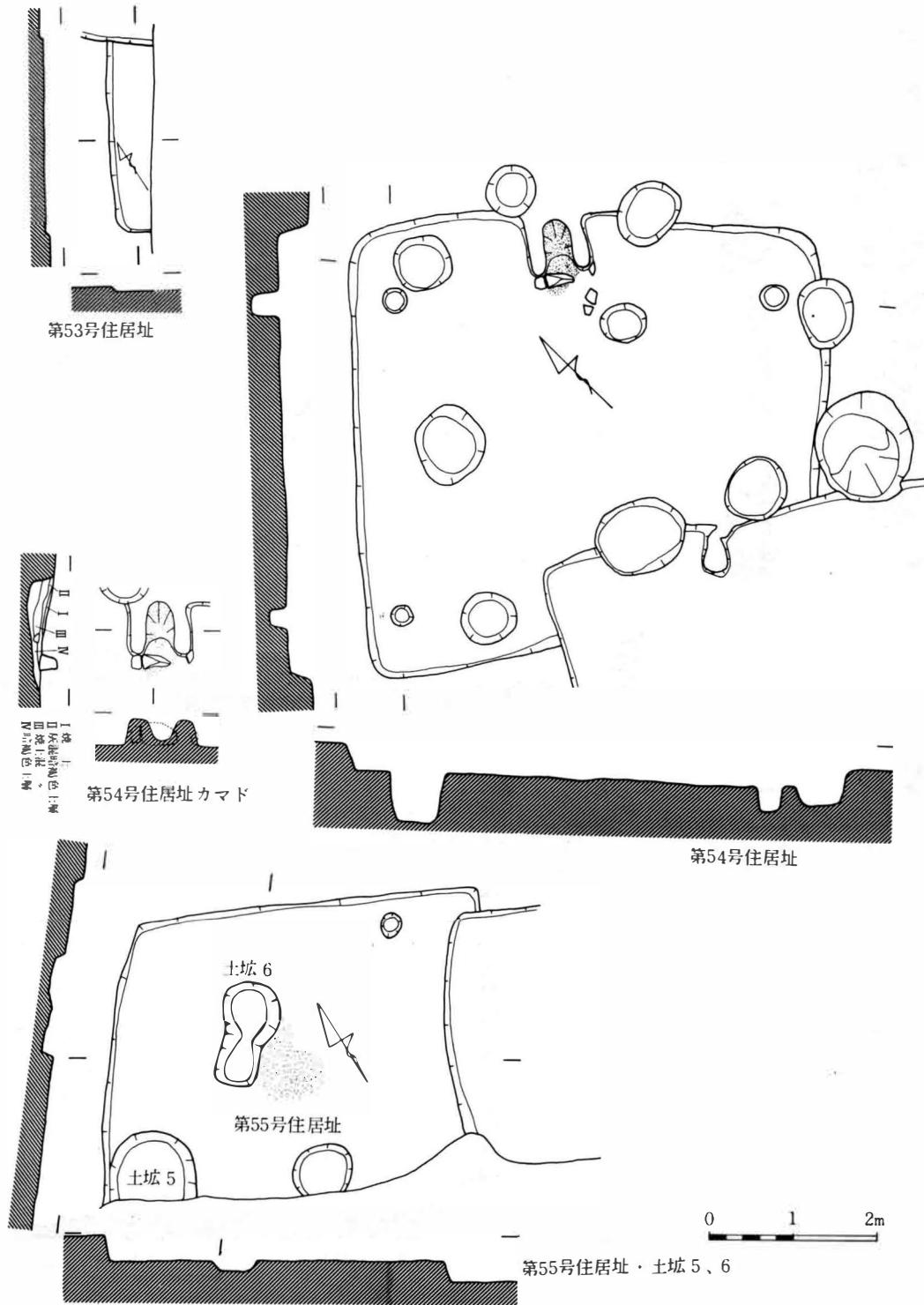
第9図 第46・47・50号住居址実測図(1:80)



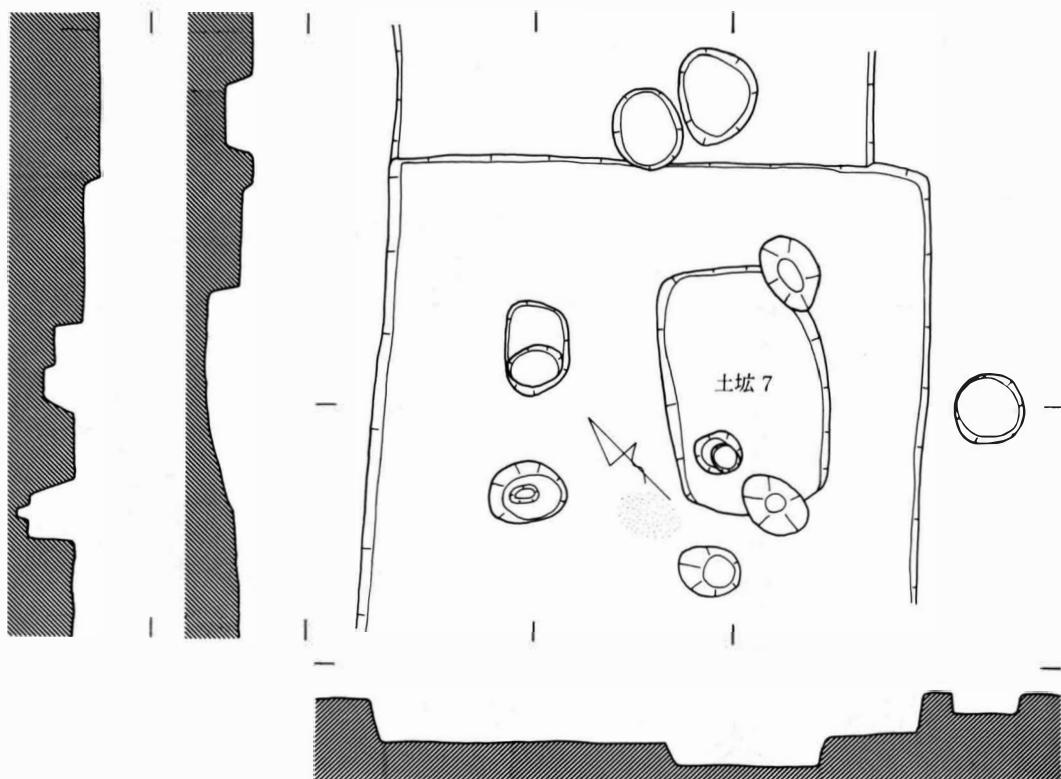
第10図 第48・49号住居址実測図(1:80)



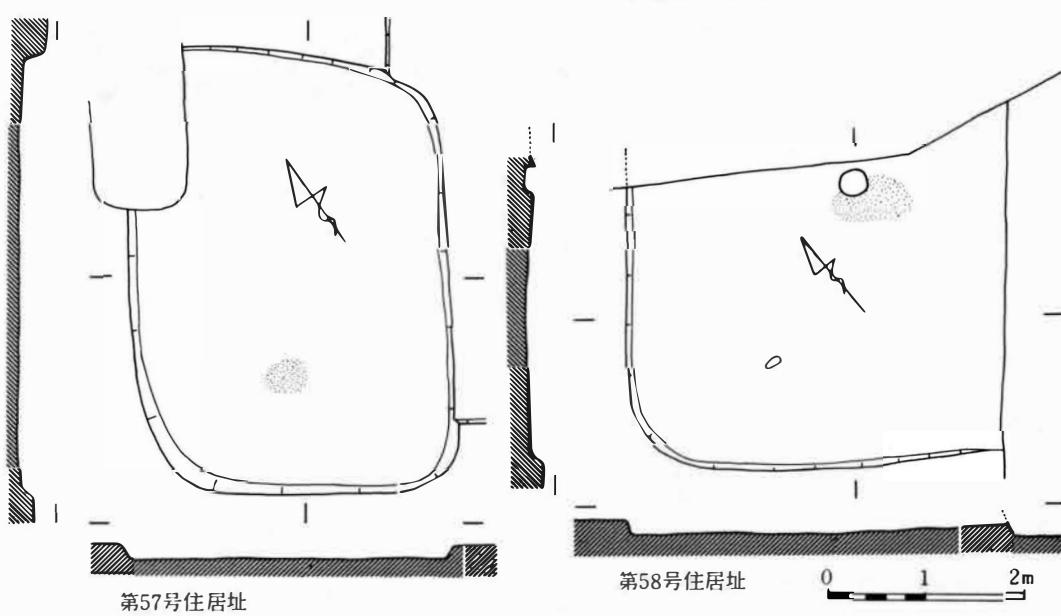
第11図 第51・52号住居址実測図(1:80)



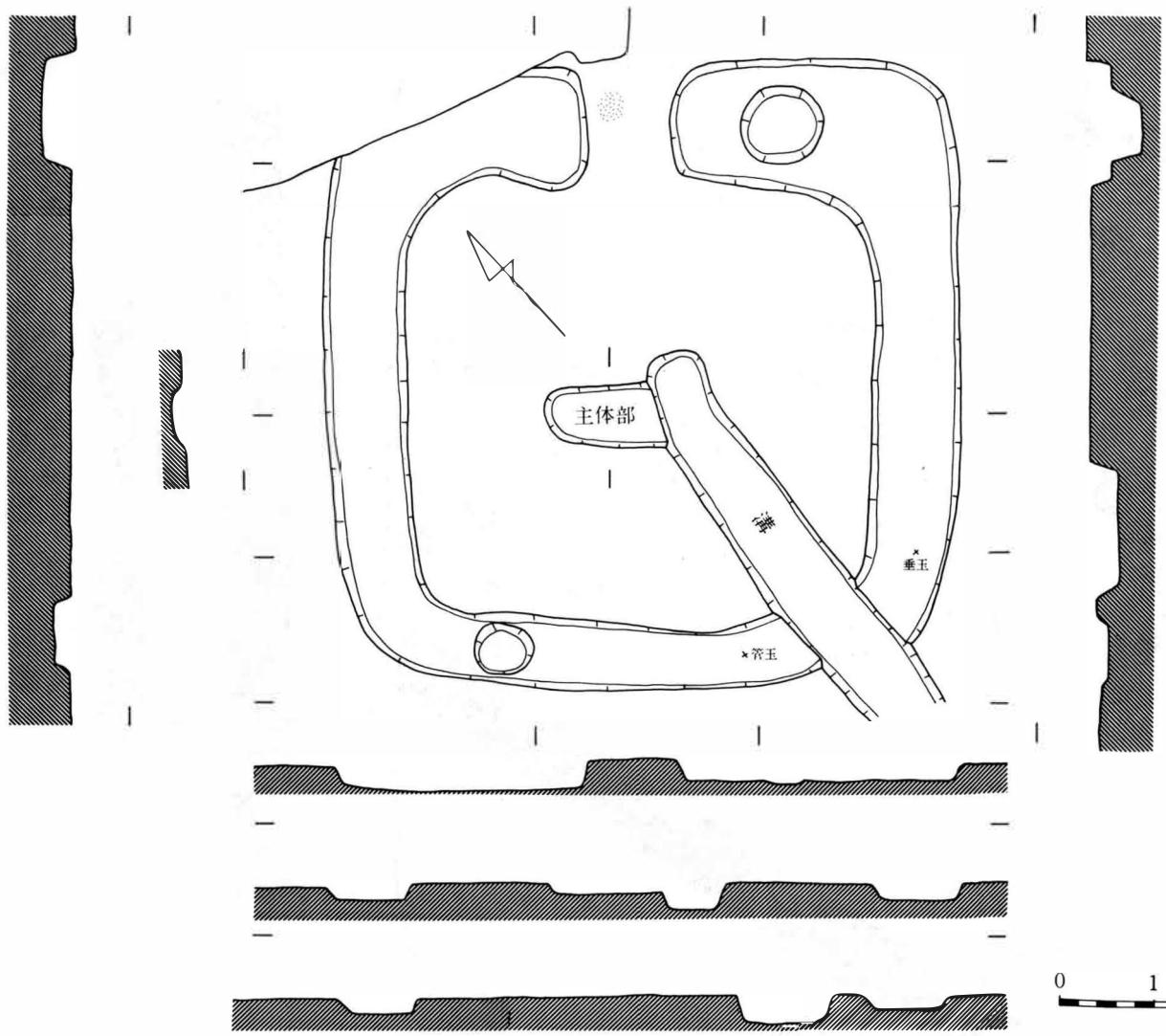
第12図 第53・54・55号住居址、土塙(5・6)実測図(1:80)



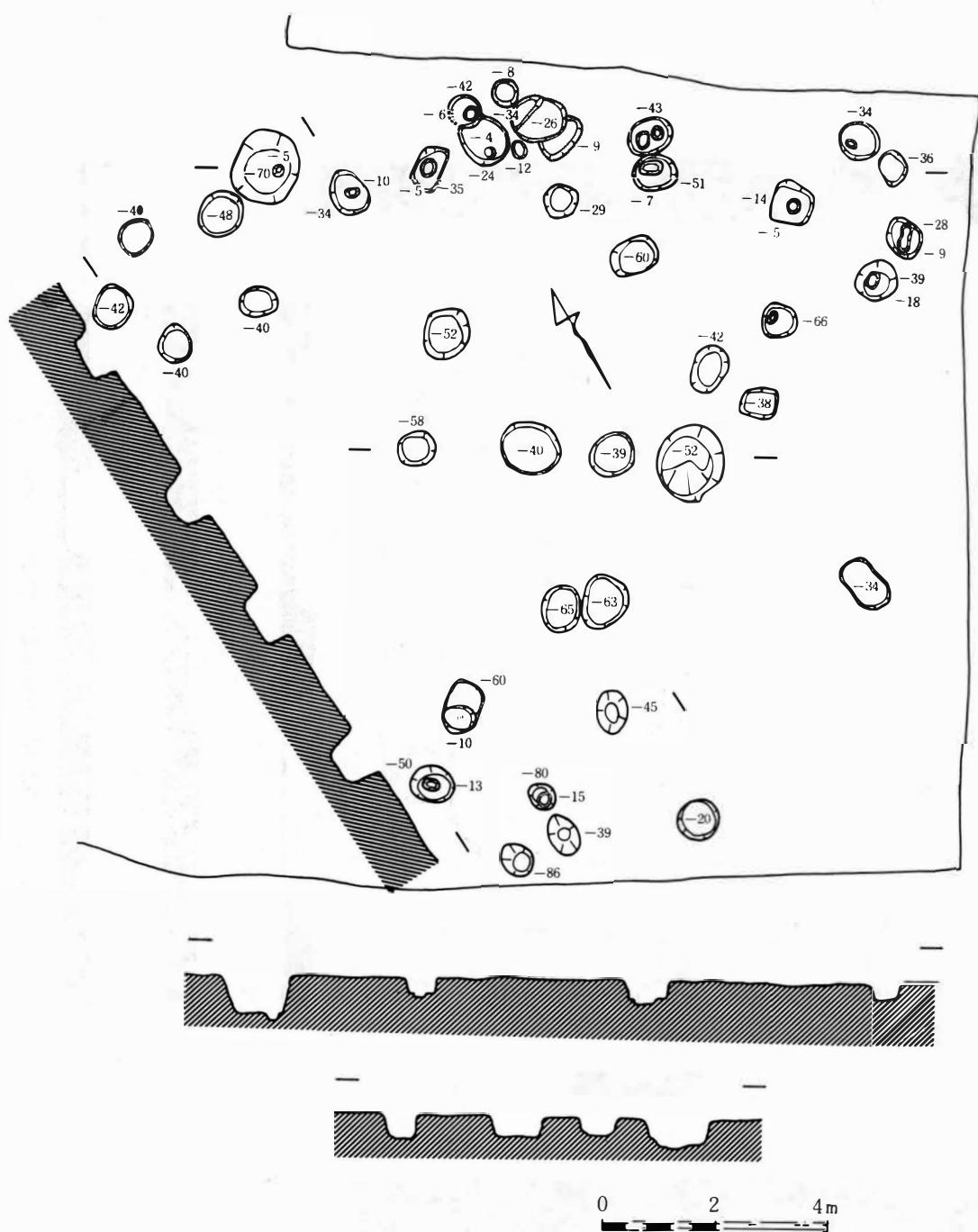
第56号住居址・土塙 7



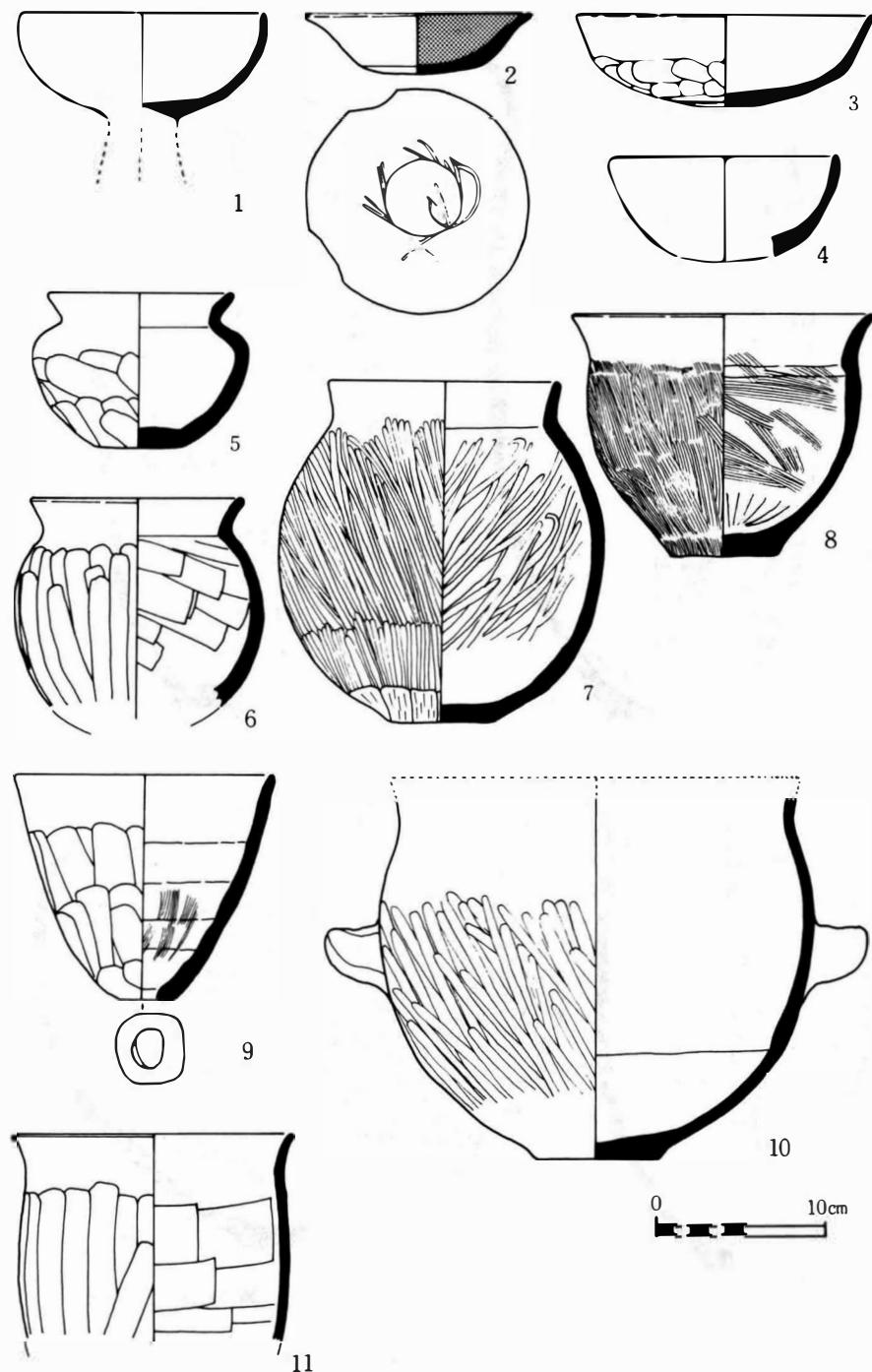
第13図 第56・57・58号住居址、土塙 7 実測図(1:80)



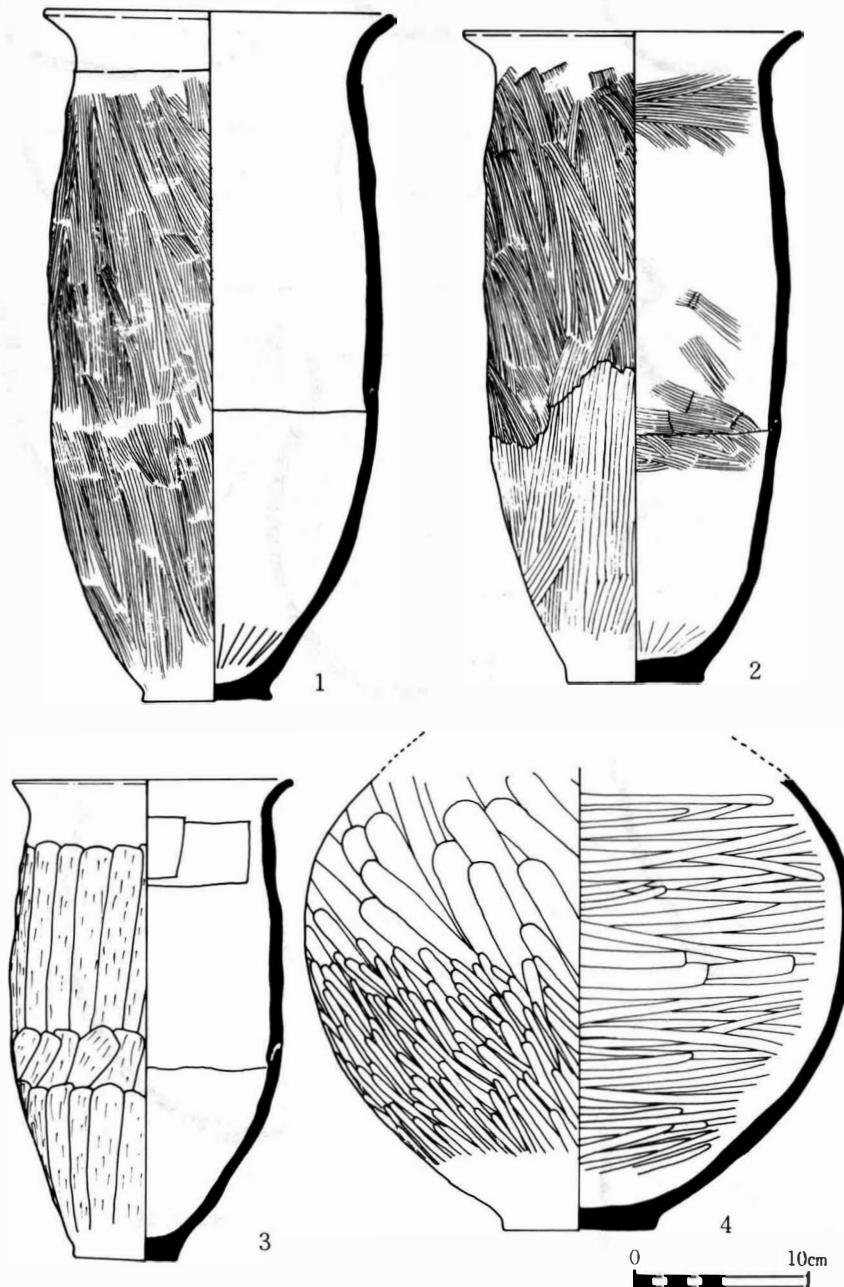
第14図 方形周溝墓'実測図(1 : 80)



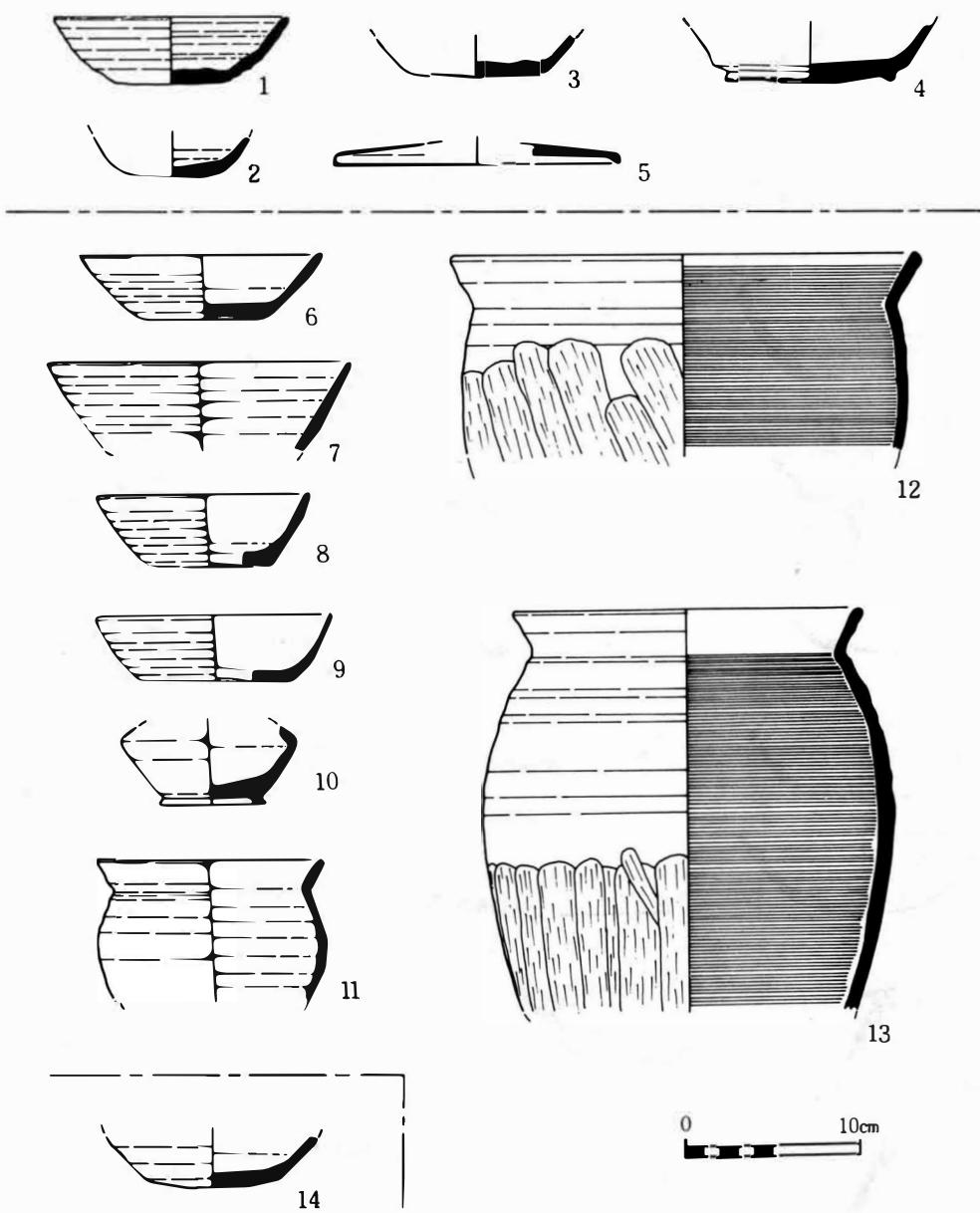
第15図 柱穴群実測図( 1 : 120 )



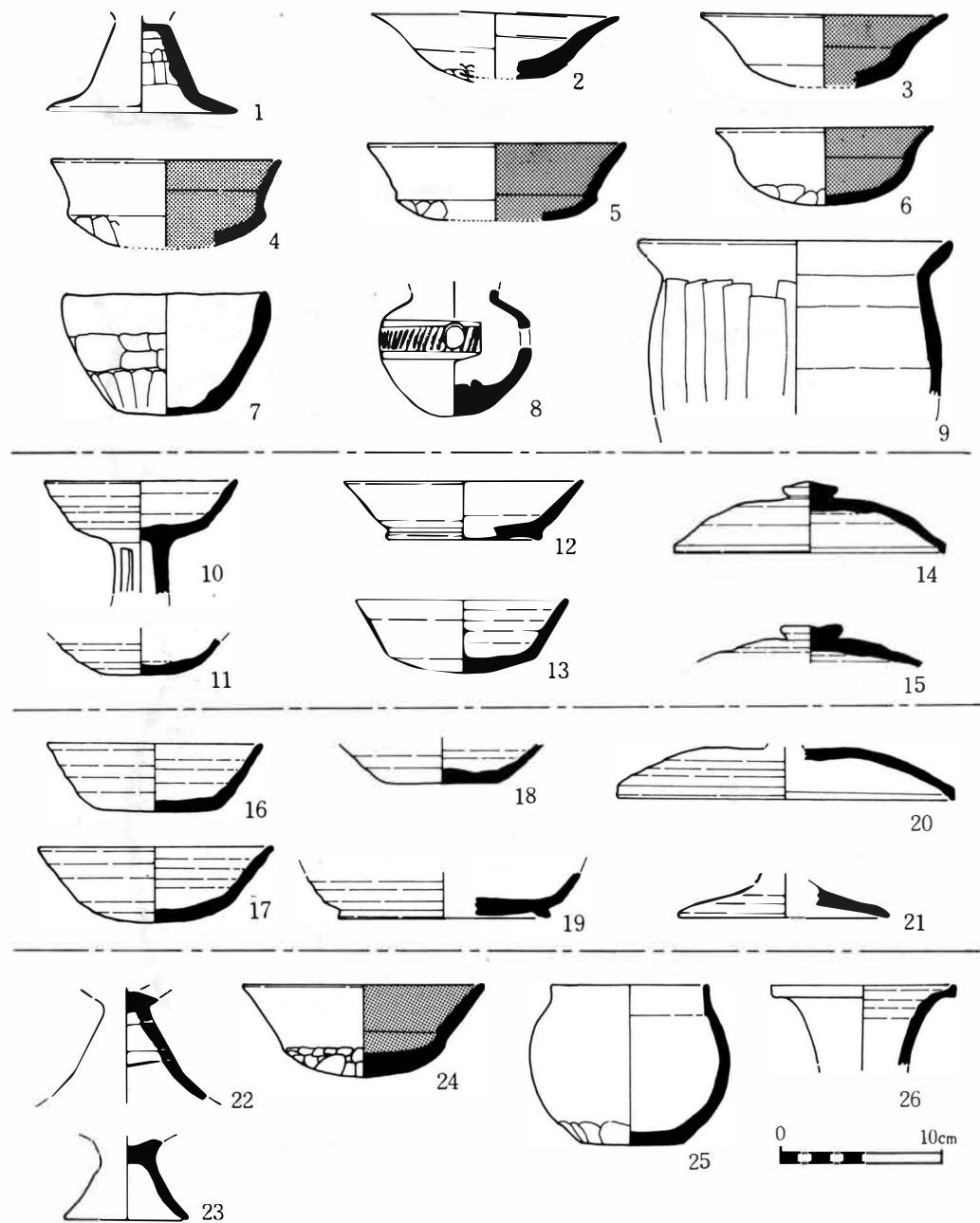
第16図 第33号住居址出土上器(1:4)



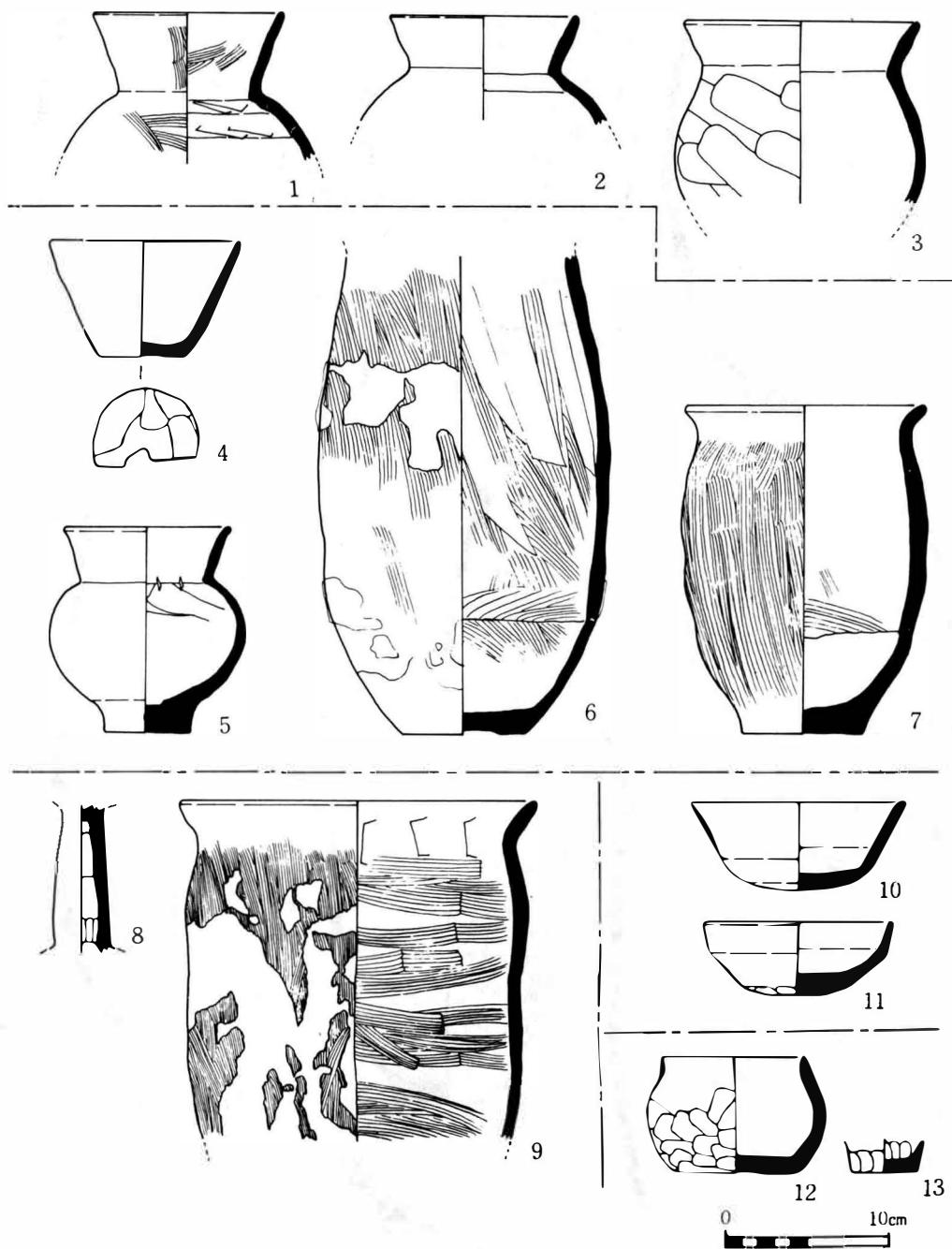
第17図 第33号住居址出土土器(1:4)



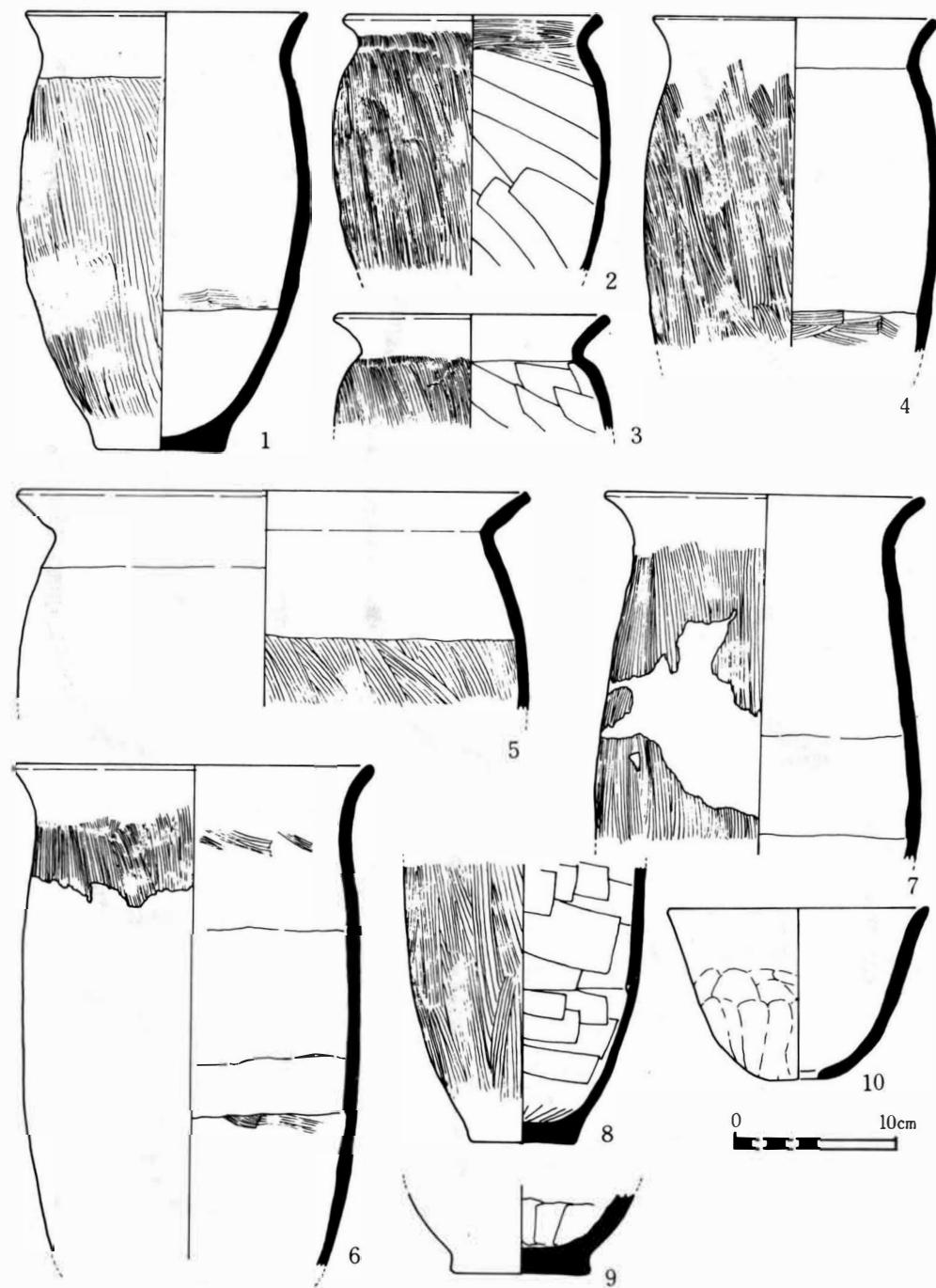
第18図 第34( 1 ~ 5 )・35( 6 ~ 13 )・37( 14 )号住居址出土土器( 1 : 4 )



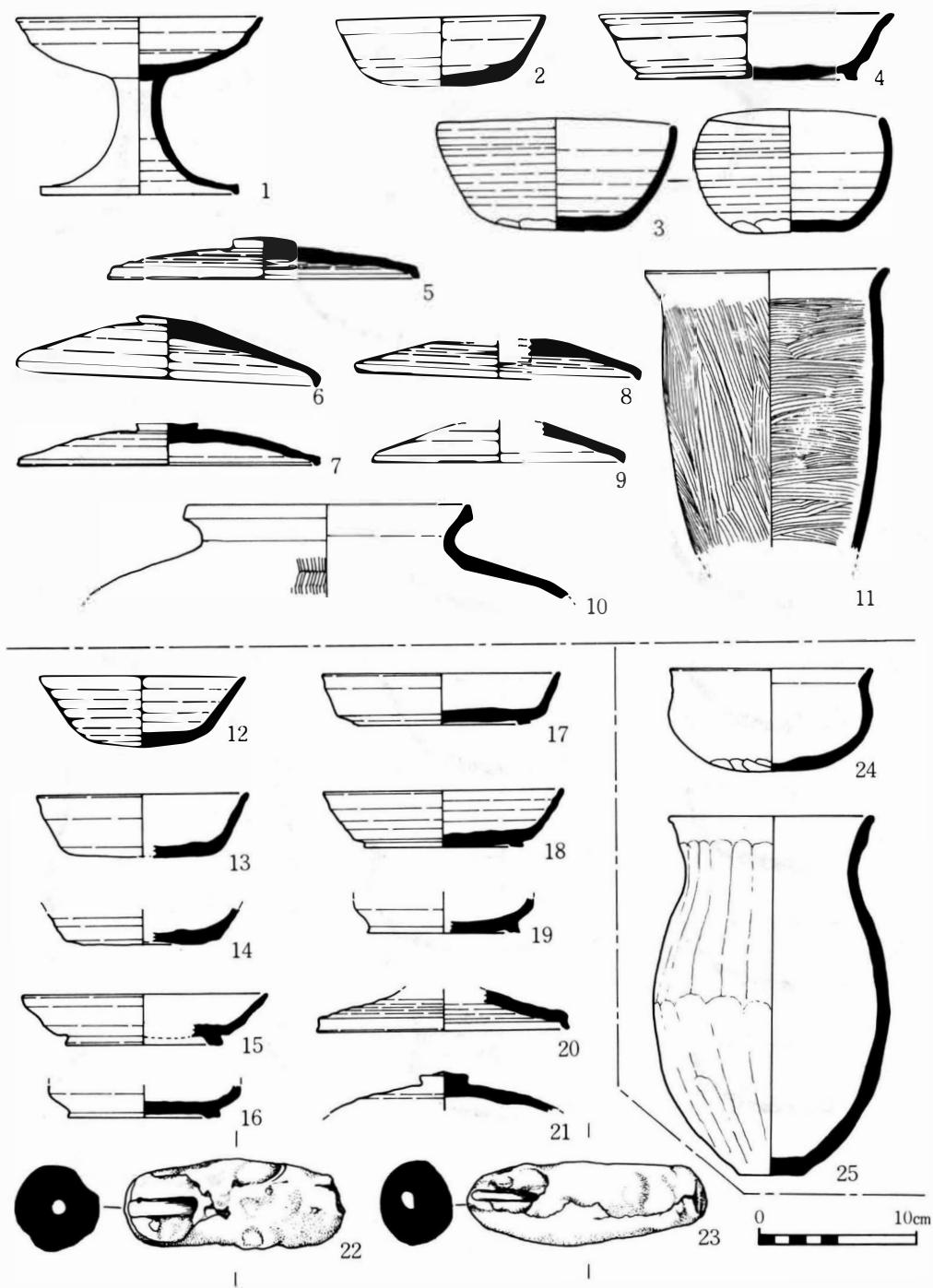
第19図 第36( 1 ~ 9 )・38(10~15)・40(16~21)・41(22~26)号住居址出土土器( 1 : 4 )



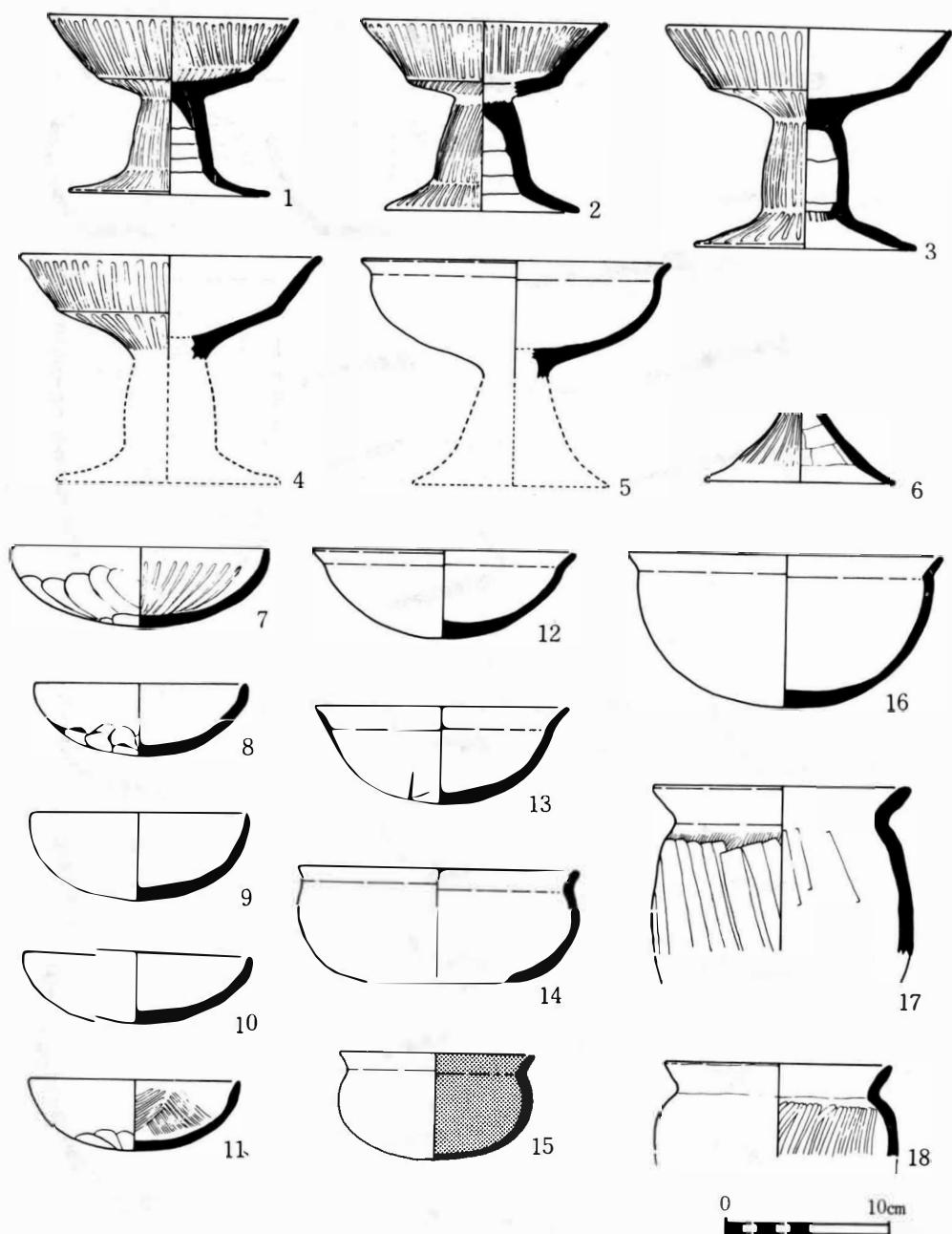
第20図 第41( 1 ~ 3 )・42( 4 ~ 7 )・44( 8 ~ 9 )・45(10~11)・46(12~13)号  
住居址出土土器( 1 : 4 )



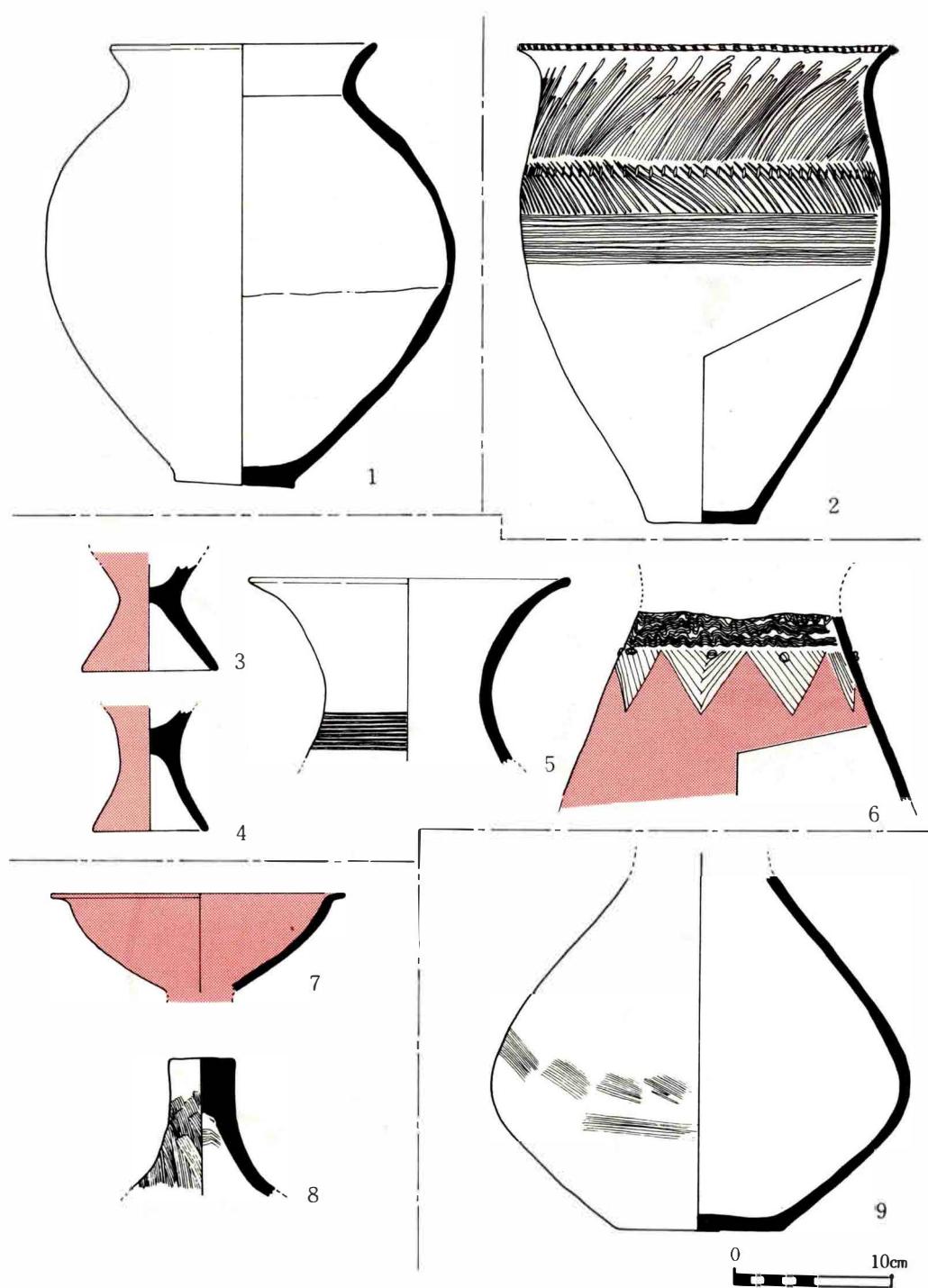
第21図 第47号住居址出土土器(1:4)



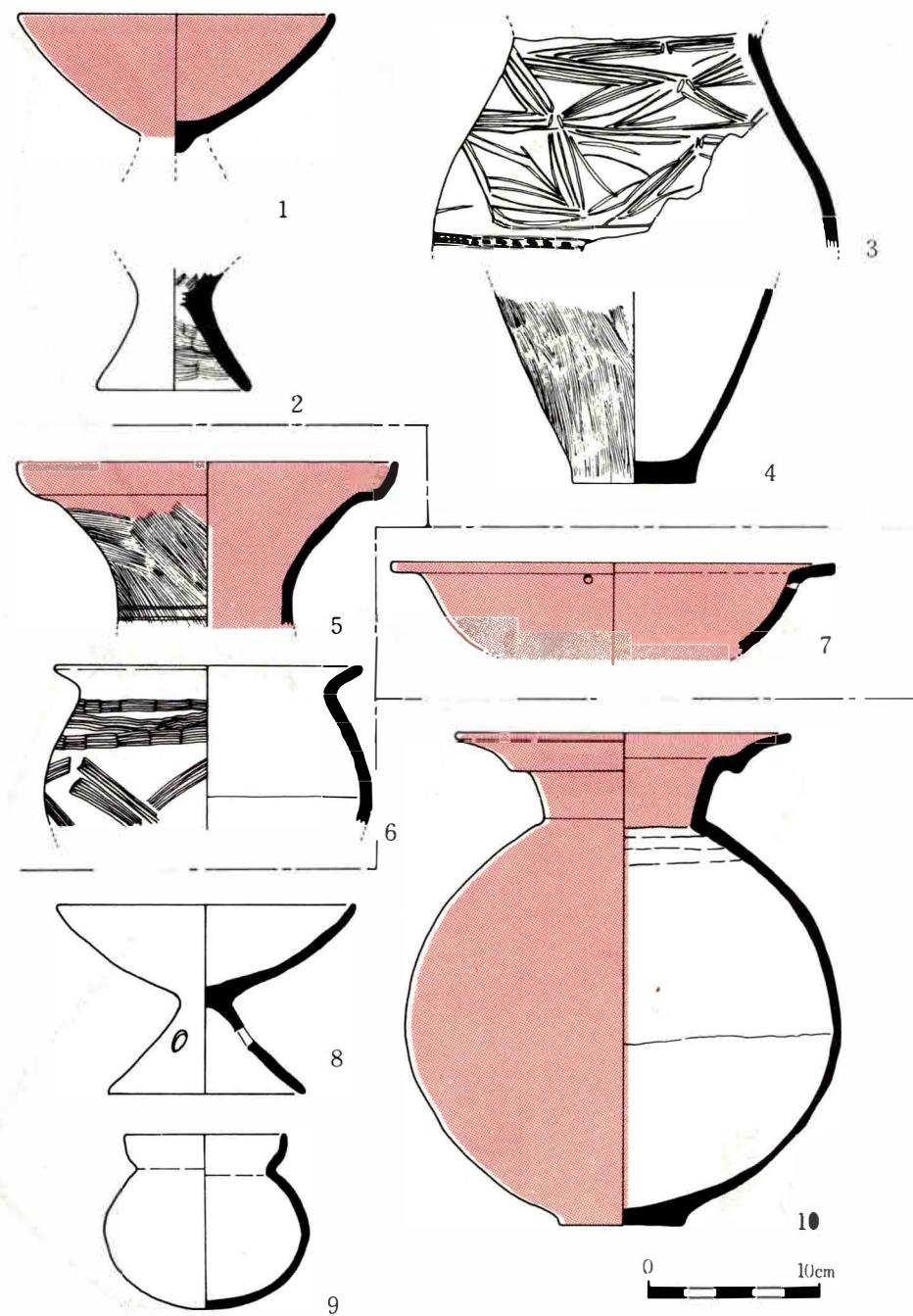
第22図 第48( 1 ~ 11 )・49( 12 ~ 23 )・51( 24 ~ 25 )号住居址出土土器( 1 : 4 , 22・23のみ 1 : 2 )



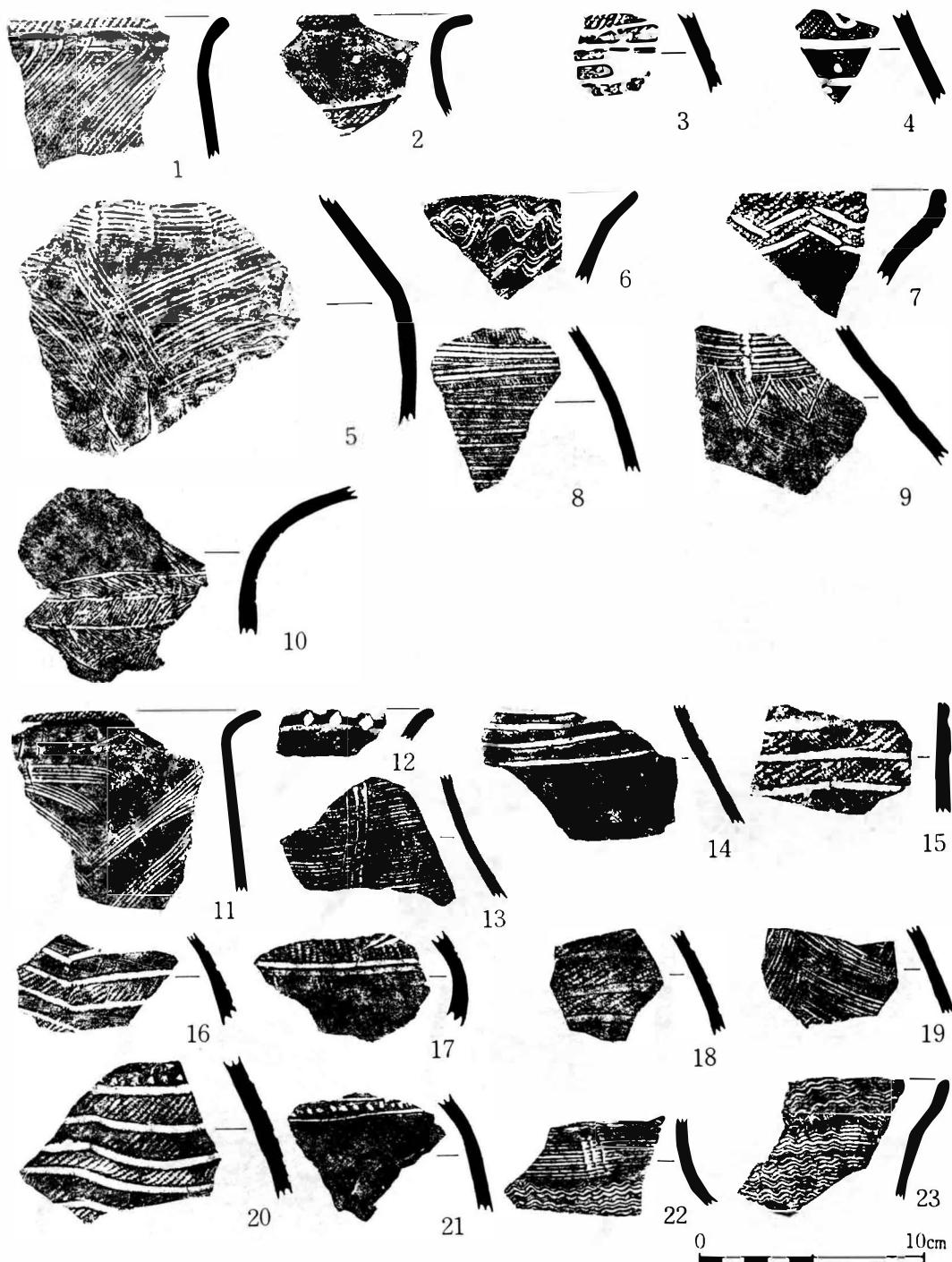
第23図 第52号住居址出土土器(1 : 4)



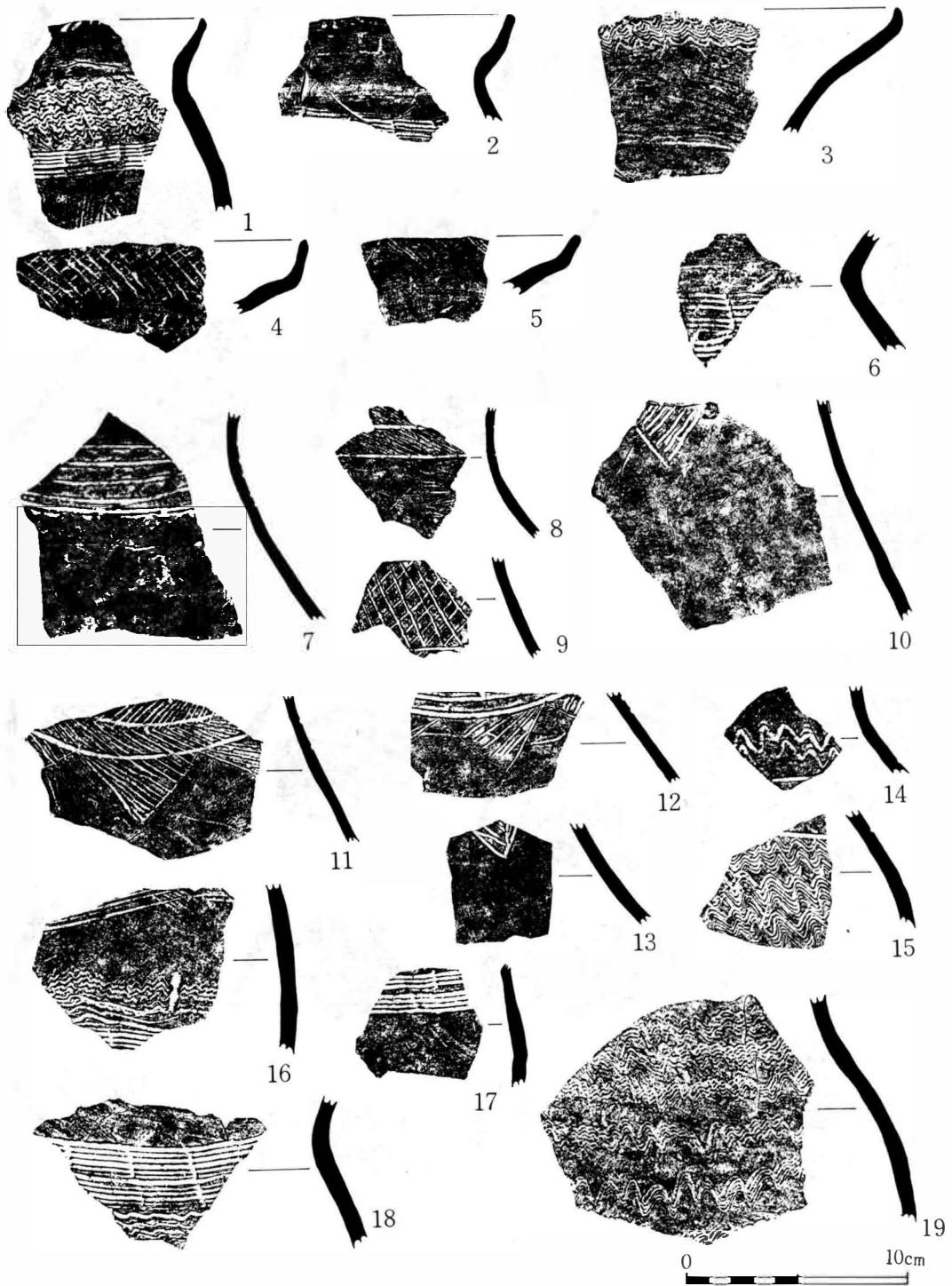
第24図 第52(1)・43(2)・55(3~6)・56(7・8)・57(9)号住居址出土土器(1:4)



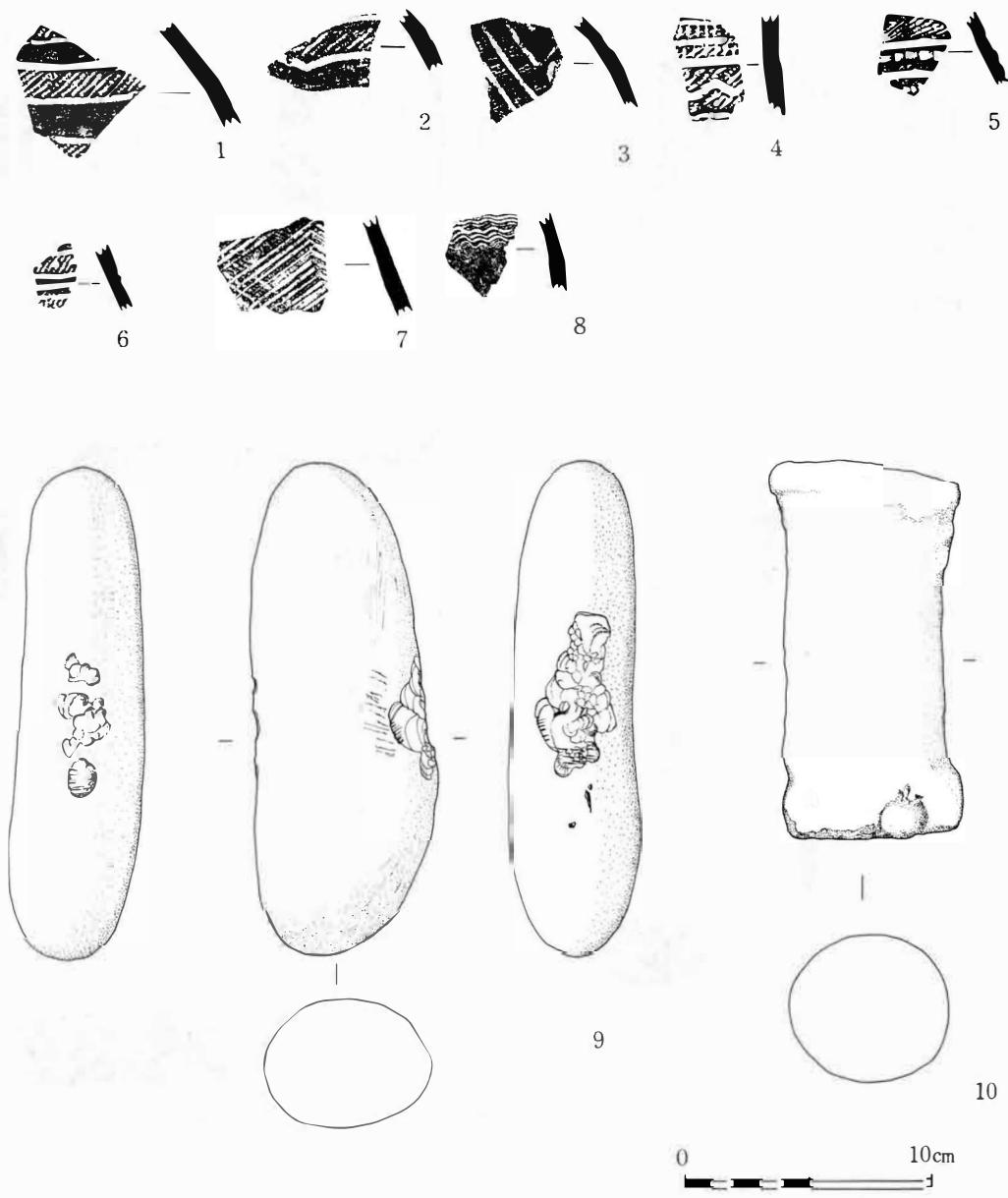
第25図 第58(1～4)号住居址, 土塙5(5・6)・7(7), その他(8～10)出土土器(1:4)



第26図 第43(1～4)・56(5～10)・57(11～23)号住居址出土土器拓影(1：3)



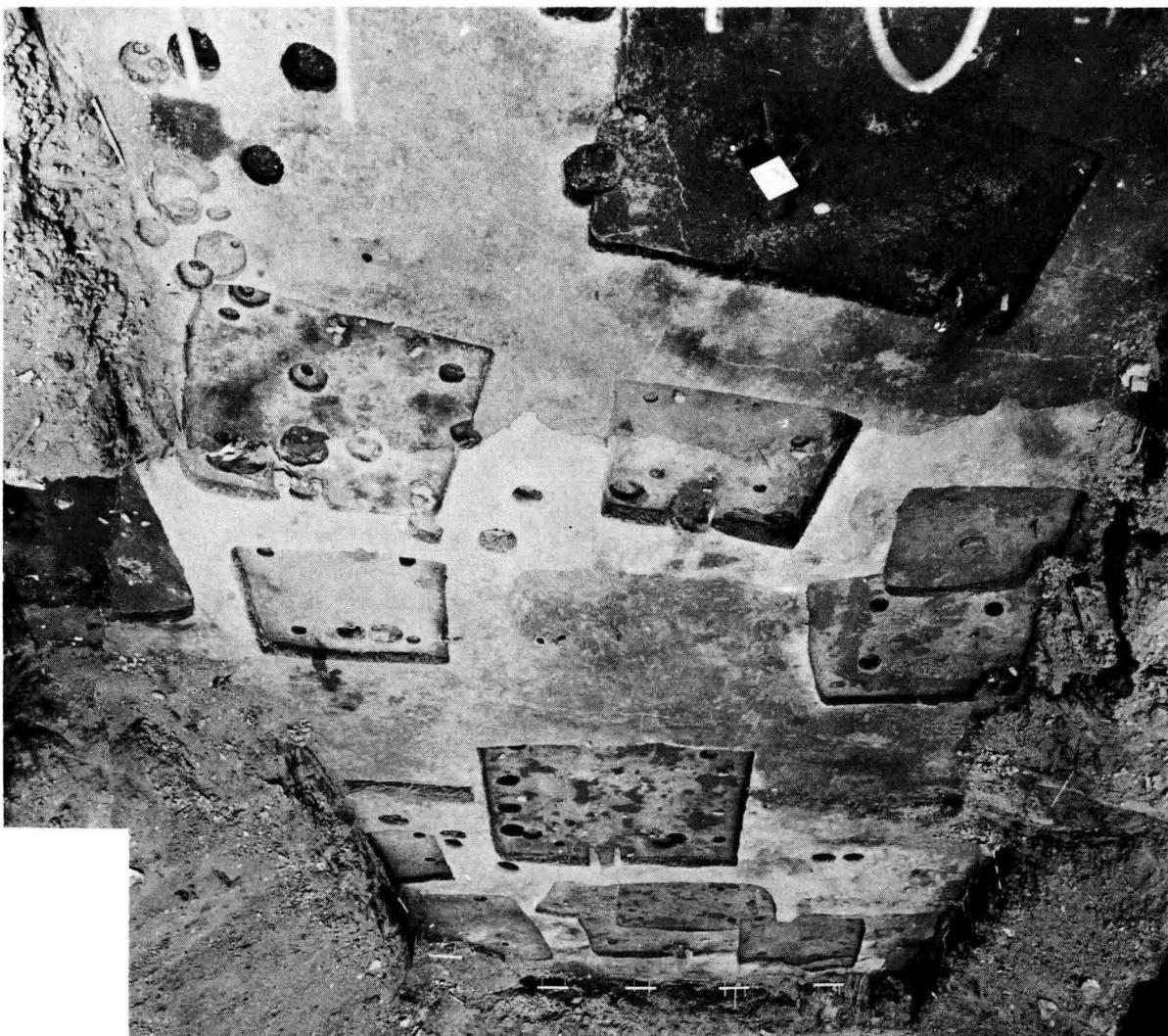
第27図 第55号住居址出土土器拓影(1:3)

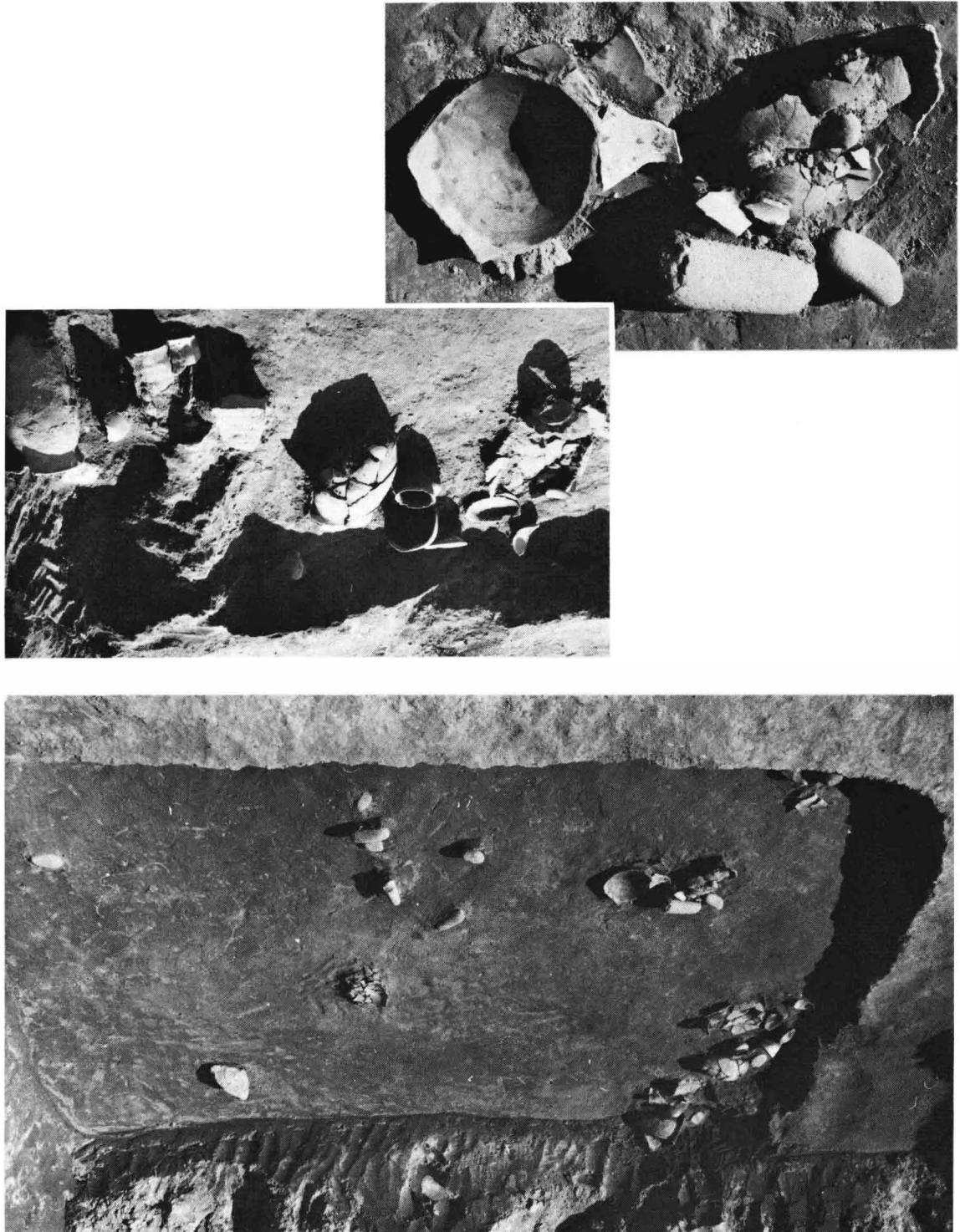


第28図 方形周溝墓(1～8)出土土器、第33号住居址(9)出土石器、  
その他の土製品(10) (1:3)

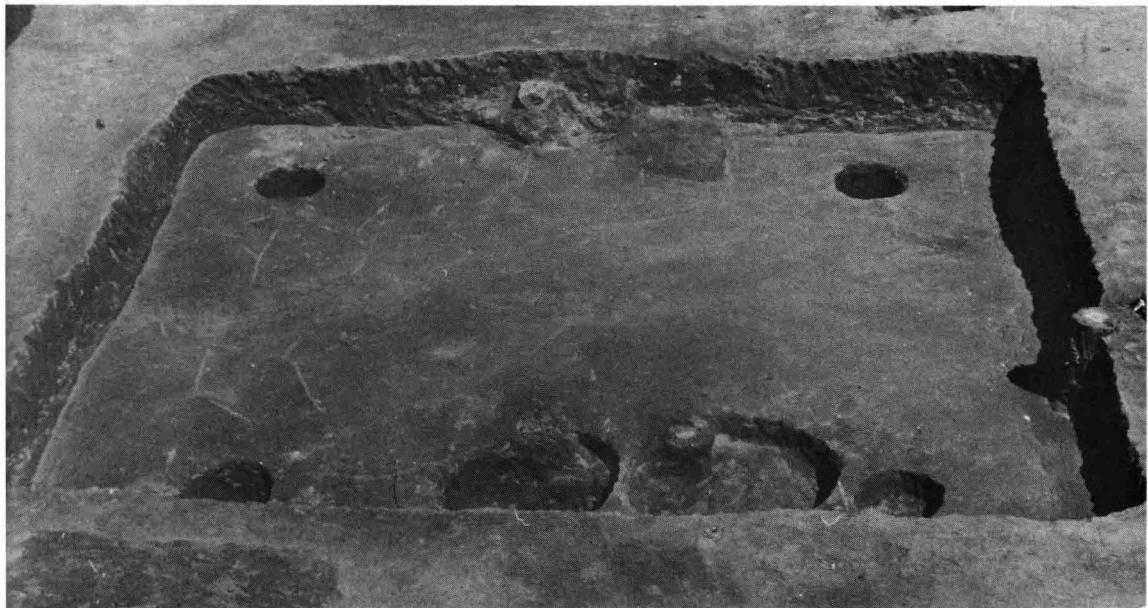


第29図 方形周溝墓(2～3), 第43(4)・49(10)・57(5～7)号住居址,  
その他出土石器(1:3, 1～3のみ1:1)





第三圖版  
第三四・三五号住居址



第34号住居址



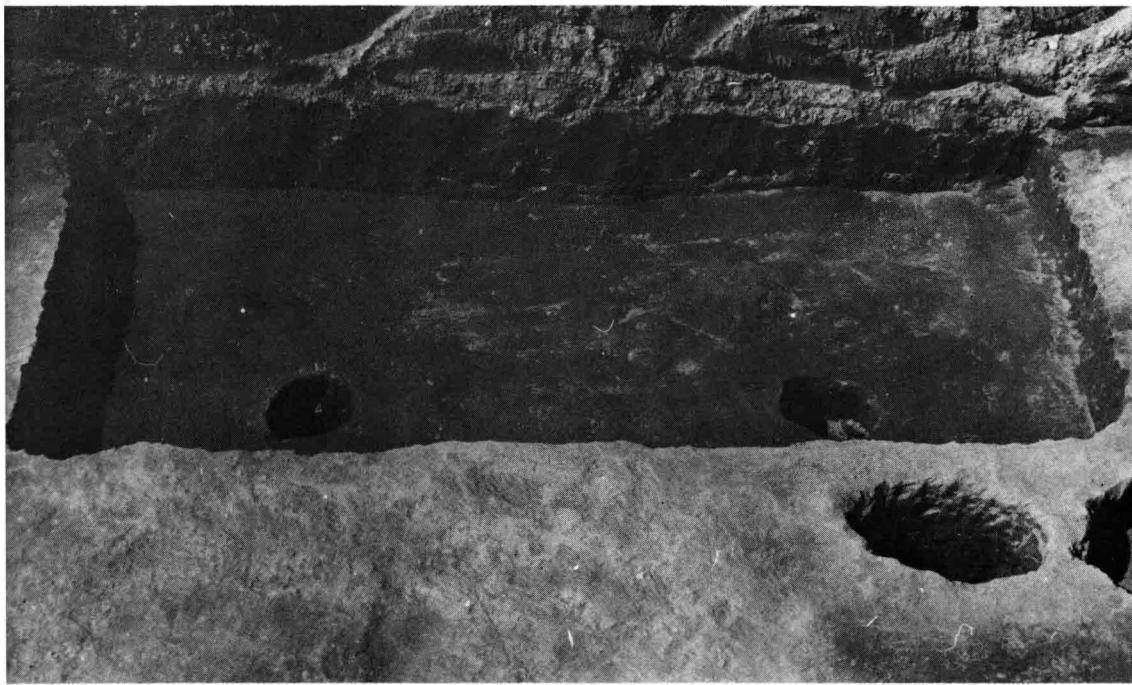
第35号住居址

第四圖版 第三六號住居址



第五図版

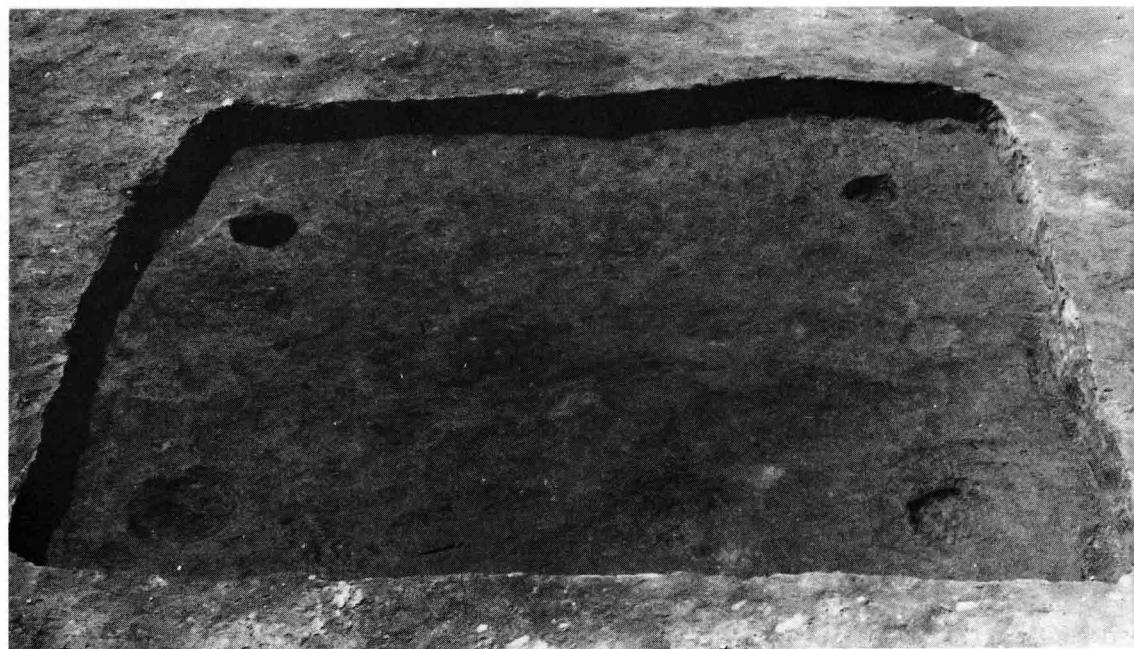
第三七・三八号住居址



第37号住居址



第38号住居址



第39号住居址



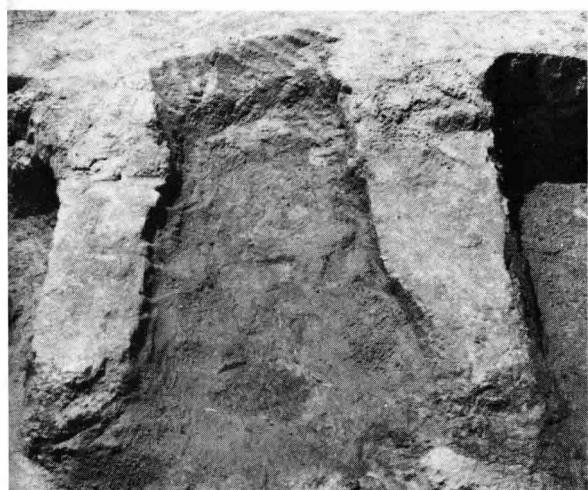
第40号住居址

第七図版

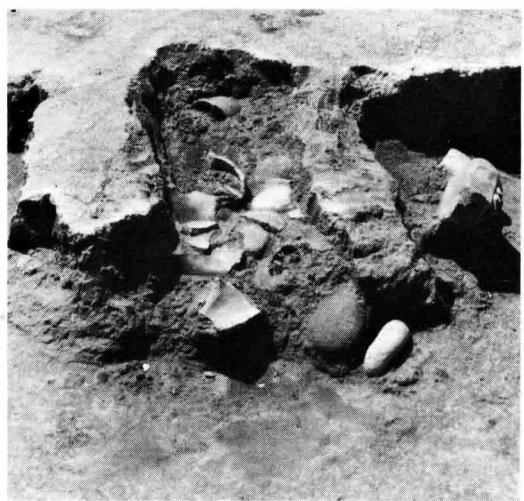
第四一號住居址・第四二號住居址 カマド



第41号住居址



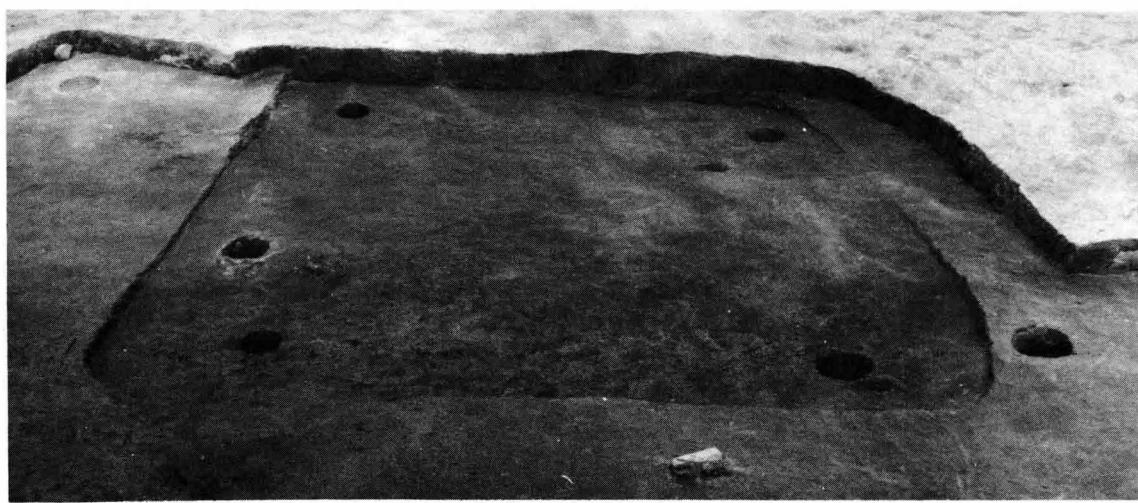
同カマド



第42号住居址 カマド



第42・43号住居址



第43号住居址

第九図版 第三八〇四三・四六号住居址

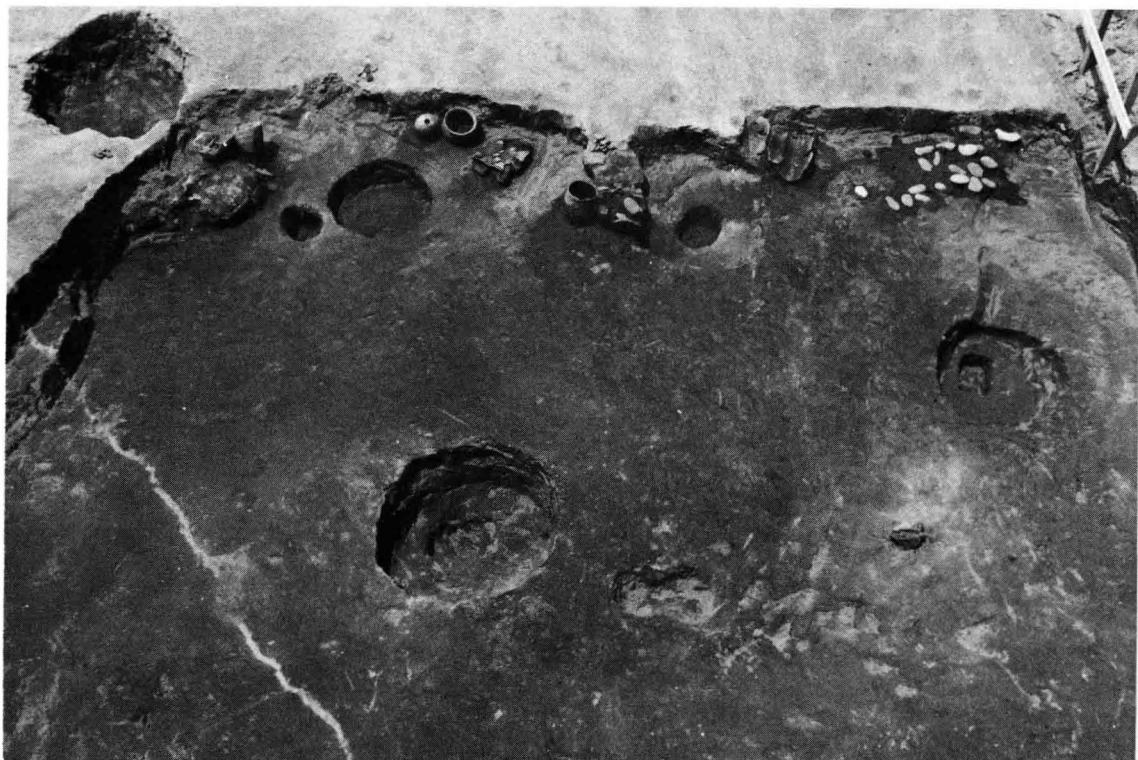


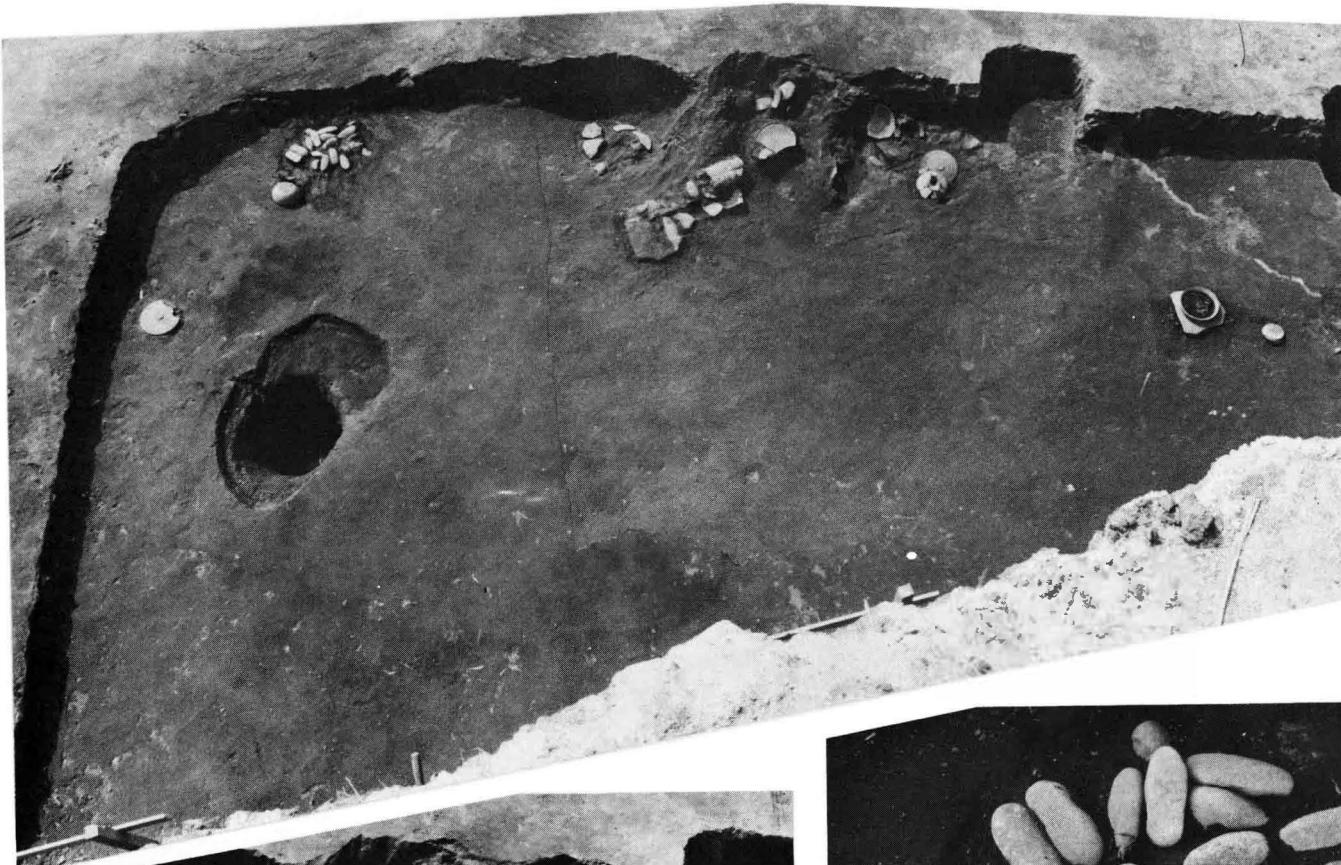
上より第38・39・42・43・40号住居址、右第41号住居址



第46号住居址

第一〇図版 第四七号住居址

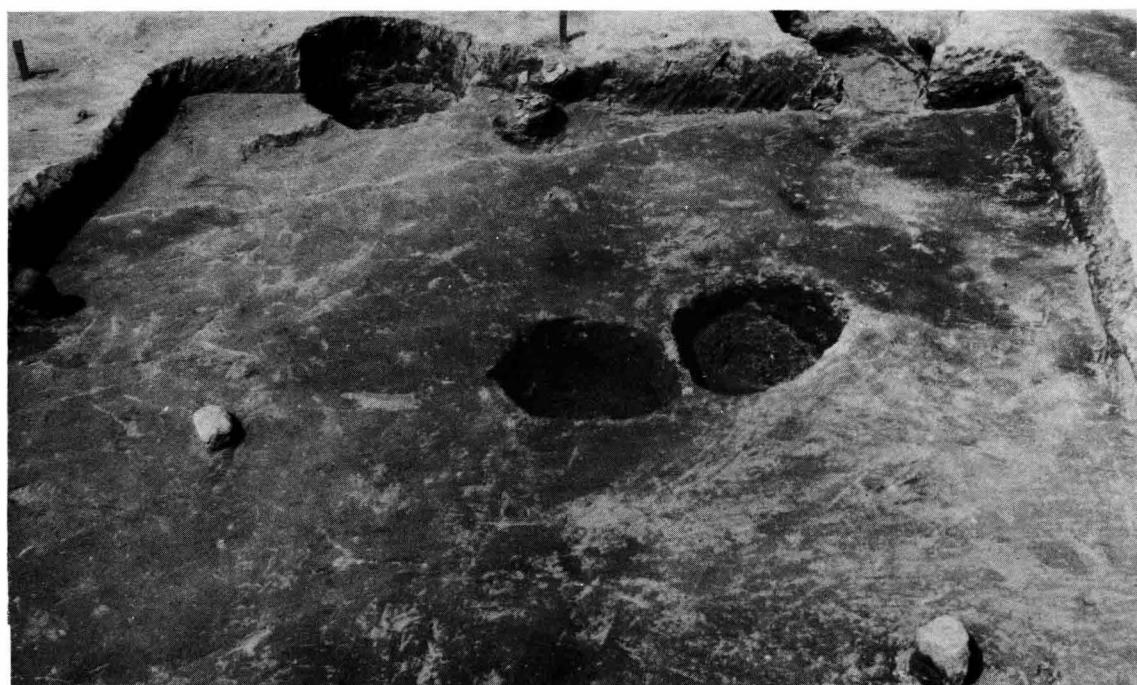




第一二四版 第四九·五一号住居址



第49号住居址



第51号住居址

第一三図版 第五二号住居址



第一四四圖版 第五四号住居址（上＝南より・下＝東より）



第一五圖版

第五五(土塙五·六)·第五六(土塙七)号住居址



第55号住居址、土塙5·6



第56号住居址、土塙7

第一六図版 第五七号住居址・柱穴群

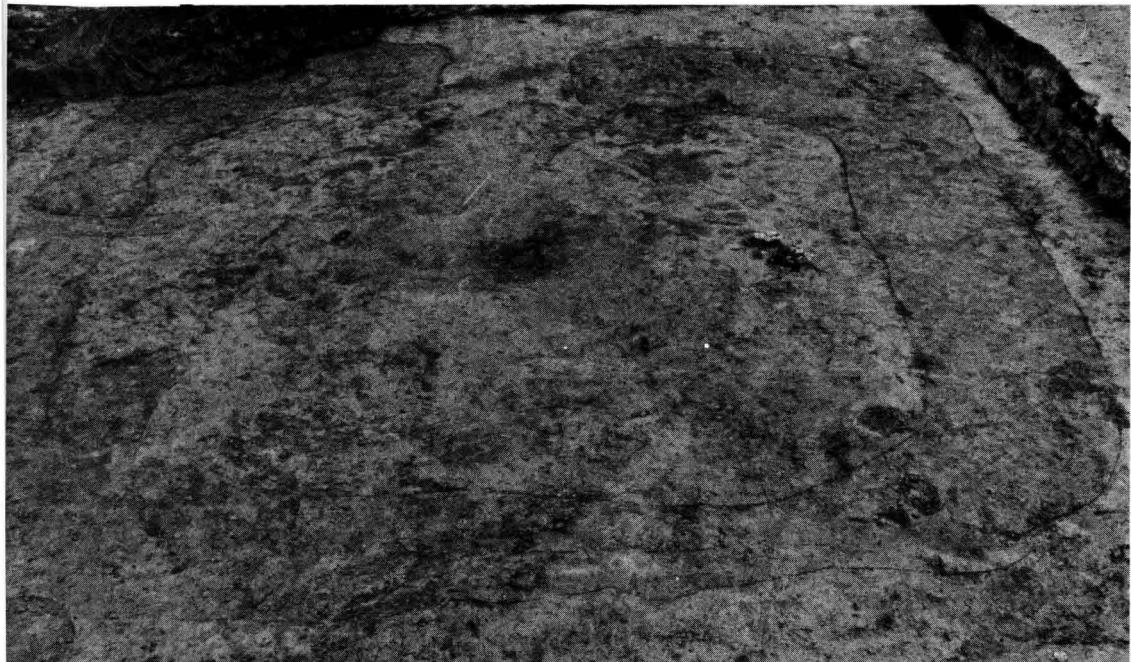


第57号住居址



柱穴群、上より第52・54・47号住居址、右端第50号住居址

第一七圖版 方形周溝墓



検出前



検出後